KOLA

100号

岸和田
オリエンテーリング
協会

KOLA ちゃん 日記

さいえ
妹

祝 100回記念 おめでとうございます。

☆☆☆

会報ＫＯＬＡ第１００号発刊のご挨拶

岸和田オリエンテーリング協会　会長　瀬戸照久

この度、当会が発行している会報『ＫＯＬＡ』が第１００号を発刊することができました。まずここまで続けてこられたのは、発行に携わって戴いた会員の努力によるものであり、府ＯＬ委員会、大阪ＯＬＣ始めいろんな方のご指導アドバイスによるものと御礼申し上げます。

当会が発足したのは昭和５０年３月の事でした。その２年前より平松正人氏、松阪善雄氏、森源一氏の３人が岸和田にＯＬクラブを作ろうと準備を始め、大会を開催したり広報紙を発行していたりしていました。そして、昭和５０年の３月上旬新聞紙上に“ＯＬクラブの発足会を開催、希望者は会場へお越し下さい”の案内を出した所、３月１５日土曜日に中央体育館会議室に２０数名が参集し岸和田ＯＬ同好会の発足となったのです。

当初から会の活動として、年３回程度の大会の開催、大会参加やパーマネントコース歩きをすると共に会報の発行を重要な柱として来ました。オリエンテーリングは主に個人スポーツとして活動することになります。またあくまで余暇活動であり、会員の皆がそろうことがなく親睦を高めるため、それに活動の報告と共にＯＬの技術的な事などのアドバイスも必要…との判断から発行されることになったのです。

昭和５０年頃の世間の事情は今のようにワープロやコピーが手軽に使えるものではなく、ガリ版印刷をしていたものです。集まった原稿を慣れぬ手つきでガリきりしていたものですから、毎月発行の予定が二月、三月とかかることになり、前文はいつも“遅くなり済みません…”

そんな中でも、発行を止めることなく年月を重ねて来ると人材は出てくるものです。ワープロやコピーが普及して来たのも一因だったのでしょうが、徐々に毎月発行に近づいてここ３年前ぐらいからは毎月発行を果たすことができました。寺田強氏、寺田保氏、横田編集長に感謝致します。

会報の中身については、役員の自己満足的な面もあろうかと思われますが、主に会員に向けての編集の意向はお解り戴けるのではないかと思います。よく言われることに、任意のしかも社会人のグループは１０年も続けるのが難しいと聞きます。だからこそ第１００号という数字の積み重ねは、１６年の歳月と共に私達の誇りとも自慢ともすることができるのだと思います。

会員の皆さんは、今後とも会報を通じてＯＬとＫＯＬＡに親しみを感じ、ますます活躍して下さる事を願います。また、ＯＬに関係する皆様、いえ私達と触れ合う機会のあるすべての皆様に、今後とも真摯なお付き合いと、益々のご理解ご協力をお願いします。

最後に、当会の生みの親でありよき指導者でもあった故平松正人氏に、第１００号の報告をしてご挨拶とさせて戴きます。

ベテランズワールドカップ（ＶＷＣ）'92に参加して　　ＯＬＣレオ　愛場庸雅

１月６日から10日まで、オーストラリアのタスマニア州セントヘレンズという町を中心に開催された、ベテランズワールドカップ（ＶＷＣ）'92に参加し楽しんできましたのでその報告をさせていただきます。ＶＷＣはＩＯＦ（国際オリエンテーリング連盟）の公式行事であり、35才以上のベテランオリエンティアを対象とした世界選手権みたいなものです。第１回は1988年にスウェーデンで、第２回は90年にハンガリーで開催されており、今回は第３回目です。クラスは35才以上５才毎に区切られており、男女別それぞれのクラスに優勝者が出る訳です。今回の最高齢者はM85にスウェーデンからのエントリーがあり、この人は完全にスターになっていました。本場北欧のオリエンティアにとっては結構重要視されているようで、彼らからみれば地球の裏側にあたるにもかかわらず、1300人のエントリーのうち700人以上がスカンジナビア三国人で占められていました。しかしやはりベテランの集いであり、競技もさることながら各国のオリエンティアとの交流を深めることが大きな楽しみです。私が楽しみであったのは、世界選手権を２連覇したあの「天才」エーギル・ヨハンセンや、オーストラリアのM35のエース、ジェフ・ローフォードと同じコースを走れることであり、また10年以上の付き合いになってしまったノルウェーのベルント・ミルボルド、85年の世界選手権のとき日本チームを世話してくれたロバート・スプロイ、カナダのＡＰＯＣで知り合ったヒデコ・ハバートさん（日本人です）などとも予想どうり再会することができました。エーギル・ヨハンセンの有名な言葉「オリエンテーリングをしていて一番の楽しみは他の人々との交流です」はやはり本当です。

レースは２日間の予選レースの後一日おいて決勝レースがあり予選の上位80人が決勝に残れ、落ちた人はコースの短いＢファイナルを走ることになります。（私はＡファイナルに残れました）　テラインは(1)見通しの良いなだらかな林、(2)錫を採掘したあとの深い亀裂や崖が無数に存在するエリア、(3)巨大な岩石がごろごろと比較的急斜面に存在するところの主に３つのタイプがあり沢ぞいはヤブもみられこれがルートチョイスを難しく面白くしています。とくに(2)や(3)のテラインは非常に難しくいちど現在位置を失うとリロケートに非常に手間取ります。地図は年寄りになると老眼で見にくくなることもあって1:10,000が使われており、地形が平らなのでコンター間隔は主に2.5mでした。地図は正確ですが数日前に大雨が降ったようで川が増水していたりしてかなり難儀しました。オーストラリアの１月は真夏なのですがタスマニアは緯度が高いため、曇りや雨で風が吹くとかなり寒くウインドブレーカーなしではおれず、逆に日が照ると日差しが強くかなり焼けました。宿舎は個人の家を１週間借りるようなシステムを申し込んでおいて、自炊していたのですが町の中心にあるところが当たったので、競技センター、スーパーマーケット、コインランドリーに近く、水道水が濁っていることを除けば、便利で快適でした。１週間でミネラルウォーター1.5ℓ入りを13本使い「水はお金を出して買うもの」を実感した次第です。

ＶＷＣは35才以上の人なら誰でも正式エントリーができます。次は1994年８月イギリスのスコットランドで開かれる事が決まっています。世界のオリエンティアと競い、友達になる絶好のチャンスです。皆さんも機会があれば是非参加されることをお勧めします。

（でも94年にはＡＰＯＣが１月にニュージーランドであるんですよ。どっちに参加するか？・・　いっそ両方・・・　）

KOLA100号記念投稿

2人のオリエンティア

大阪OLC ― 池田

会報100号おめでとうございます。

KOLA 初代会長 平松正人氏との出会いが、岸和田OLCとのつき合いの始まりだった。15年も前になるだろうか。以来、平松氏の暖かい人柄に引かれてKOLAに私達は「実家」のような心安さを持ってきた。

初めて平松氏にお会いしたのは、御嶽高原のOL講習会だった。高原というのでおもしろいOLを期待したが、別荘地と自動車道路のアップダウンのきついコースで、参加者は歩くしかないものだった。平松氏はすたすたと身軽に歩き、馬ごめの宿の散策でもあれこれガイドをして下さり、不思議なおじさんだなと思ったものだ。後で登山をされ方々へ旅しておられると聞き「なーるほど」と納得した。以来、知っている先生のお父さんということもわかり、一層親しみを感じ岸和田OLの大会にはよろこんで参加させていただいた。各地の大会にも積極的に参加しておられたが、歩きや景色を楽しみレースは二の次というように見えた。それよりも「OLの楽しさ・集う嬉しさ・つながる喜び」を広めることに意義を感じておられるように思えた。鄭荘中学OLCの生徒も「平松のおっちゃん」と親しみ、生徒が参加できない大会は淋しがっておられた。いつもニコニコして、どこまでも温厚な人だった。

初期の大会は、どのクラブも地図は国土地理院の1：25000をコピーして使用していたが、調査・修正の技術もコピー機の能力も（青焼きが多かった）まだまだで、それ故に時にセッティングが不確かで、参加者はまさに宝さがしの事もあったが、私達OL虫はものともせず岸和田のみかん山の間を駆け回った。

私達がへとへとになってゴールすると「すんませんなあ」と恐縮しておられた姿を思い出す。KOLAのアットホームな雰囲気は、平松さんからかもし出され、受け継がれそれに引かれて参加する常連は今も多い。

何はともあれ、我々の心の中に今もKOLA＝平松氏の思いがある。大きな存在であった。

もう一人のオリエンティア 下本和夫氏のことだが、随分お姿を見ないので御心配の方もあると思う。

下本氏は、和泉市第1市民OL大会で生まれたオリエンティアである。大変健脚で、各地のPコースをたくさん歩かれたし（1日2～3コース）あちこちの大会にも数多く出場しておられる。KOLA常連の1人で、よく自転車で参加しておられた。

大会前に地図を買って来て「ゲレンデはこの辺、ポストはこことここ。」と予想を立て、うまく当たると目がなくなる程、相好をくずしてよろこばれる。今風に言うと、とてもカワユイおじさんである。

二度の大病で随分スリムになられたが、お元気な姿を過日光明池緑地でお見かけした。「もうOLをする元気がありません。今はシルバーの歩く会を作り世話をしています。」とハイキングの下見途中であった。歩く楽しさを人々と分かちあい、人とつながっていくことに生き甲斐を見出しておられる意欲が、健康回復を早め再びOLに復帰される日が近いことを願わずにいられない。

健康回復・維持のため歩くことが盛んに行われている。単に歩くより目的地を目指して、自らルートを選んで歩くほうがずっと楽しい歩きになる。

日本のOLは「徒歩」から始まり「個人」へと競技性が高まったが、もう一度徒歩にも力を入れ、特に高齢者にOLをお勧めするのは大事なことだ。2人のオリエンティアを思い出しながら考えている。いつまでも楽しめるOLのあり方について‥‥。

KOLA１００号記念発行おめでとうございます。

心からお祝い申し上げます。ＫＯＬＡがいつ頃から発行されるようになったのかよく覚えていませんが、昭和４７年頃には岸和田ＯＬ同好会として活動されていたように思いますから、第１号はその頃でしょうか。まだ大阪ＯＬクラブが生まれる前、と言うよりは大阪にＯＬクラブが余りなかった時代から、大阪南部“泉州”地区で活躍され、私がＯＬを始めたころは大会その他でよくお世話になりました。青年会議所をバックに賞品をドッサリ用意されたり、救急係に自衛隊（編集部注＝日赤救護班です）を動員されたりして、我々“素人”がドギモを抜かれたのを覚えています。

まだＯＬの良き時代だったのでしょう。最近のＯＬ界には自分のことだけで精一杯で、ＯＬ界以外の団体に目を向けて一緒にやろうという雰囲気が余りないように見受けられます。又より良いＯＬを目指してスポンサーを獲得しようという動きも見当たりません。かろうじてＪＯＡ発足に絡んで日本体育協会加盟問題が生じたに過ぎません。これからのＯＬ界の発展、クラブの発展にはＯＬ界だけではなく、他の団体の動きにも目を向けて、ＯＬ界を時代の流れに溶かして行く必要があると思います。

ＯＬクラブの機関誌は、そのクラブの顔であると私は常々思っております。クラブの活動が活発であるときは、その内容は充実して生き生きしており、その逆の場合はなんとなく記事も沈滞しています。クラブの動きやＯＬ会の動静は数クラブの機関誌を読めば大体分かります。

最近の岸和田ＯＬ協会さんは会員も増えて良くまとまっており、活発に活動しておられます。ＫＯＬＡも編集者が代わったのか、最近は内容も多くなり（頁数が多くなったという意味ではない）今までと違った新鮮さが感じられます。

１００号を記念とし、貴クラブの益々のご発展と充実したＫＯＬＡの発行を期待しております。

大阪ＯＬクラブ副会長　大西　良則

寄稿 御礼申し上げます

今回 当ＫＯＬＡ会報100号記念誌発行にあたり、皆様に原稿をお願いいたしましたところ、お忙しい中たくさんの方々より熱いメッセージをいただき、たいへんうれしく思っております。ありがとうございました。

今後共、ご指導ご協力をお願いし、また皆様方と共にＯＬ活動の発展に微力ながら頑張りたいと重います。

――――寄稿いただいた方々（あいうえお順・敬称略）――――

・ＯＬＣレオ　愛場庸雅・大阪ＯＬＣ　池田富子・大阪ＯＬＣ　大西良則・ＯＬＣ吉備路　大森和実・紺野　晃・島根ＯＣ　財間定義・コンターズ　辻村　修・ＯＬＣ吉備路　福田良雄・豊中オリエンテーリングクラブ　松井喜章・高槻ＯＬ同好会　室井孝介・森　喜重・コンターズ　游　賢忠・ＯＬＣ吉備路　吉岡康子

KOLA100号記念投稿

機関誌「KOLA」100号を祝う

紺　野　　晃

機関誌「KOLA」発刊 100号、おめでとうございます。毎号お贈りいただく機関誌を楽しみに読んでおりましたが、考えてみると、号数まで読んでいませんでした。 100号にもなったとは驚きです。「岸和田オリエンテーリング協会」のみなさんのご努力に感嘆し、感激するとともに感謝しております。

さて、私は、1969年（昭44）、ブタペストで開催されたＩＯＦ第５回総会に出席し、日本の加盟を果たしましたが、この総会開催中、恒例のＯＬ大会があり、その会場へ行くバスの中で、各国の代表者が歌を唄うことになりました。日本代表は私一人、唄うことが苦手の私は、何を唄おうかと考え込んでいました。ほどなく、「ネクスト、ジャパン！」とお鉢が回ってきました。

その時、フッと頭に浮かんだのは、第二次大戦中によく唄った歌でした。

丘にはためくあの日の丸を　仰ぎ眺めるわれらの瞳
いつか溢るる感謝の涙　　燃えてくるくる心の炎
われらがみんな力の限り　　勝利の日まで勝利の日まで

これは「勝利の日まで」と題する歌だと思います。何でこの歌が頭に浮かんだのか不思議ですが、当時、私は「いずれ、ＯＬで世界制覇をしてやるぞ」という意気込みを持っていたからでしょう。ＯＬの「オ」の字もなかった日本、ゼロから始めたわけですから、世界制覇など雲を摑むような話です。しかし、何年かかろうと普及によっては可能です。その普及の第一歩は何といっても愛好者を増やすことであり、その愛好者の協力を得ることが必要です。またＯＬは、他のスポーツ以上に、愛好者みんなの協力がなければできないスポーツです。そのため、アメリカやヨーロッパの国ぐにの地域社会のスポーツ・クラブ方式を導入する必要がありました。

同時に、当時、核家族が進んで年齢を越えての交流がなくなってきたので、そのためにも、年齢を越えた交流ができる場の必要性を考え、わが国には経験のない地域社会の本格的スポーツ・クラブとしてのＯＬクラブ設立を呼び掛けたわけです。これに呼応して多くのＯＬクラブが誕生し、活動が始まりました。岸和田オリエンテーリング協会は所期の目的に向かって、それを具体的に実践し、しかも永続してきた数少ないクラブです。16年間に 100号の発刊、なかなかできることではありません。みなさんの努力に深く深く感謝するとともに、これからも永遠に続けて行くことを願っています。　　（もとＩＯＦ普及教育委員会委員）

“100号”に想う　廚閻OC定義

◆　ナンバーの冠を大切に…

例えば、この3月下旬開催の全日本ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞは、第18回大会⟹次の2年目は、記念すべき節目の大会となりますから、劃期と成るよう、それなりの工夫を加えるでしょう。

ﾅﾝﾊﾞｰの冠があればこそ、主催の当事者も、そのことを当然、意識するでしょうし、参加者も祝意を持って賛同し、盛り上げるでしょう。

当事者が、第20回という“冠”を忘れたなら⟹画期的な着想も無しに唯、恒例のごとく推移してゆくだけ。だから私は、関与する行事が、創始以来“第何回”か、機関紙なら“第何号”かを、つまびらかにし、明記することを努めて実践し・主張もしている訳です。

その意味で、岸和田ＯLAが、機関紙 100号到達を大切にされ、広く寄稿を求め『記念誌』とされ、飛躍への劃期とされる壮図に、敬意！

◆　岸和田ＯLAに学ぶこと…

私が、ｵﾘｴﾝ活動の上で、岸和田ＯLAの存在を意識するようになったのは、４年前の春。服部緑地PC設置記念大会の折、大阪ＯLCの大西会長のご配慮で以後、愛読を始めた月刊『大輪言』が奇縁。

その誌上で、７／16（土）の岸和田中央公園ﾅｲﾄO・翌日は大阪OLCｽｺｱＯが在る事を知り参加。好印象なので以後、通算３回、岸和田OL大会に足を運びました。あちこちの遠征先で、岸和田ＯLAの控え場所を発見すると、思わず足を運び、同じ ｸﾗﾌﾞ員仲間の気分で、談笑！　それは、

①，岸和田ＯLAの暖かい雰囲気（善意と親しみ溢れる人柄）が魅力。

②，月刊『KOLA』の存在を知って即、自発的に愛読を始めました。なかでも、瀬戸さんのOL提言には多分に共鳴しています。瀬戸さんが編集部長だから『大阪府OL委員会広報』も、愛読を熱望した程です。

「ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞは、参加してこそ楽しい」と言う、瀬戸さんの提言を受けて、私たちの『ﾐﾆｺﾐ紙』は毎号、その言葉を巻頭に掲げ、合言葉とするように努めています。

『O-JAPAN』誌と JOA広報との連繋についての提言にも、共鳴者が多いと思います。

今後も、積極的な“提言”を、期待します。

③，ｲﾝｶﾚ４回出場後の中村孝太郎さんの抱負は、京大ＯLC活動に区切りを着け、居住の京都に根づいた ｸﾗﾌﾞづくりを目指すとのこと。確かに居住の自治体・都道府県境を越えた広域巨大ＯLCが、そこ此処に存在していますが、それは我が国に見られる異常現象。ｽｳｴｰﾃﾞﾝなどでは、孝太郎さんが提唱するような、居住地域に根ざした ｸﾗﾌﾞこそが本当の姿。単一 ｸﾗﾌﾞで出来ないような大きなｴﾍﾞﾝﾄについては、隣接 ｸﾗﾌﾞが緩やかな連合を作って対応する。これが、在るべき姿だとｵﾘｴﾝ留学で、彼は確信したと言います。『O-JAPAN』の田口さんも常々、そう提言し「横浜市港南」に根付いたＯLC活動を実践されています。とかく異状が大手を振って、まかり通っている日本のなかに在って、岸和田ＯLAは、他府県居住者を正ﾒﾝﾊﾞｰとしない理想 ﾀｲﾌﾟとお見受けします。

④，岸和田ＯLAの若い ｵﾘｴﾝﾃｨｱ・横田先生が、勤務の郷荘中学ＯLCと連繋し、親身あふれる活動は、全国の教師の模範です。

◆　課題は、大阪府OL委員会が、府体協への加盟を模索し始めた今日、地域に根付いて先進的な活動実績のある岸和田ＯLAが、いまだに市体協に加盟を望んでいないと思われること。もし、そうであるなら翻意し、我々と同様に、市体協に即時、加盟し、メリトを存分に享受して欲しい思います。

首捻り 三番

コンターズ　辻村 修

鈴

```
      KOL.A
×)      百.号
  1992.3
```

千歳

岸和田 + OL協 = KOLA − 百号
(岸 > 和 > 田 > O > L > 協 > 0)
↑―英字オー　↑―数字ゼロ

三番叟

```
        KOLA
岸和田) 祝100号!
        □□□
        □□0
        □□□
         □□号
         □□□
          □□!
          □□□
           0
```

8月2日までに全問を正解された方には，コンターズの機関誌「こんたりんぐ」を1年間無料進呈いたします。
ただし，結果だけでは駄目ですよ。途中経過が知りたいのです。
計算機を利用する場合は，APL・BASIC・C・FORTRAN・PASCAL・Mathematica のいずれかでお願いします。
なお，8月2日というのは，第12回コンターズ練習会が予定されている日です。よろしく。

OLC吉備路　福田良雄

KOLA会報が記念すべき100号を迎えましたこと、謹んでお祝い申し上げます。

毎月順調に発行しても単純に8年余りですが、この間何事もなく発行して来たということは大変な努力と言えます。私共の吉備路が現在72号で7年目を迎えようとしていることを振り返るに、大変な努力と改めて申し上げたい。

大阪府下で、巨大クラブの大阪OLCの影にともすれば隠されてしまうような、ちっちゃな岸和田OLAは、地元での活動が中心で、外へ向いては瀬戸氏のみが看板だったように思います。「地域クラブであり、常日頃会員の集まりやすい組織に会報は不要では？　私のOLPの機関誌を購読してほしいのだけど…」古くからのOL仲間でもあり、いつの大会でもH21B．仲々同じクラス（H21A）に入って来てくれない彼によく話したのですが、いつの頃か創刊、しばらくしてストップ再開を繰り返していたのが、私共のクラブが誕生する前頃より順調に発行され始めたようです。

編集長は瀬戸氏から寺田保氏、横田実氏とバトンタッチ。各々にカラーが打ち出され立派な機関誌へと成長しているようです。　2年前からナマイキに有料化、瀬戸氏個人の付合いで購読層を広げていますが、金を取って情報を売る点ではイマイチ、今後の健闘に期待したいものです。

企業に社内誌（報）があり、学校で校内新聞、同窓会報等があるように、私共のクラブにも機関誌（会報）があるのですが、この会報とは、

1．組織内の結束を強くする、内部向けの顔。

2．他の組織へ、自分達の組織がどのようなものか等をアピールする、外向き　　の顔。

の二つの顔をもっています。OLというスポーツが好きで、このスポーツを通じて同じ屋根の下に集まった同好者の群れが、より親しくつき会え、さらに大きくふくらむために機関誌の意義は重要なものと考えます。そのためには…

1．毎回定期的に発行

2．リーダー個人でなく、組織のカラーを打ち出す

さらに購読して貰えるニュースを！となると思います。クラブ内で回すだけなら伝言板でよいかも知れない、しかし有料となると責任がかかってきます。

1．発行が遅れてはならない。

2．内容が不足してはいけない。

3．誤った情報、ゴシップは流してはならない　　……etc

編集する責任者はとても大変なのです。クラブ員全体が責任を持ち、片寄らないよう全員参加で守って行くことが出来れば、その組織は次への発展を約束されると思います。

これまでの瀬戸氏中心でなく、色々な人の話があり、色々なクラブ員の情報が花を咲かせ、暖かみの伝わってくるような、加えて身じかに役立つ情報の盛り込まれた、そんな機関誌を夢見ています。　私共もまもなく100号に近づきます。単に過去を振り返るのに用いるのではなく、親しんで残して貰えるような機関誌となるよう、私共『吉備路』の機関誌も岡山の…ではなく、中・四国の…いや西日本の…とも考えて努力しています。　150号、200号と祝うことの出来ますよう期待します。今後とも協力の程よろしくお願いします。　100号を記念して。

OLC吉備路　吉岡康子

100号発刊おめでとうございます。

今から数年前、とある大会で『発行している会報があったら交換してほしいと、こんなものを渡された』と、我がクラブの初代会長池田が差し出したのが“KOLA”でありました。当時、まだクラブ創立間もない頃で、クラブ員への“お知らせ”程度のものしかなく『こんなもの貰ってどうしよう』と言うのが感想でありました。

それから“吉備路”も頑張って毎月発行のクラブ誌とし、2月号でNo72を数えることができました。その頃の“KOLA”は年に8～10冊だったので「追いつき、追い越せ」と、ひそかに思っていたのですが……。

そして、ファミリー的なクラブ＆クラブ誌をこれからも大切に育てて行って下さい。もちろん“吉備路”とも仲良くしてやって下さいませ。

KOLA100号記念投稿

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆　機関紙「KOLA」１００号　☆

☆　誠におめでとうございます。　☆

☆　ＯＬ界の先達として益々のご伸展とご活躍を　☆

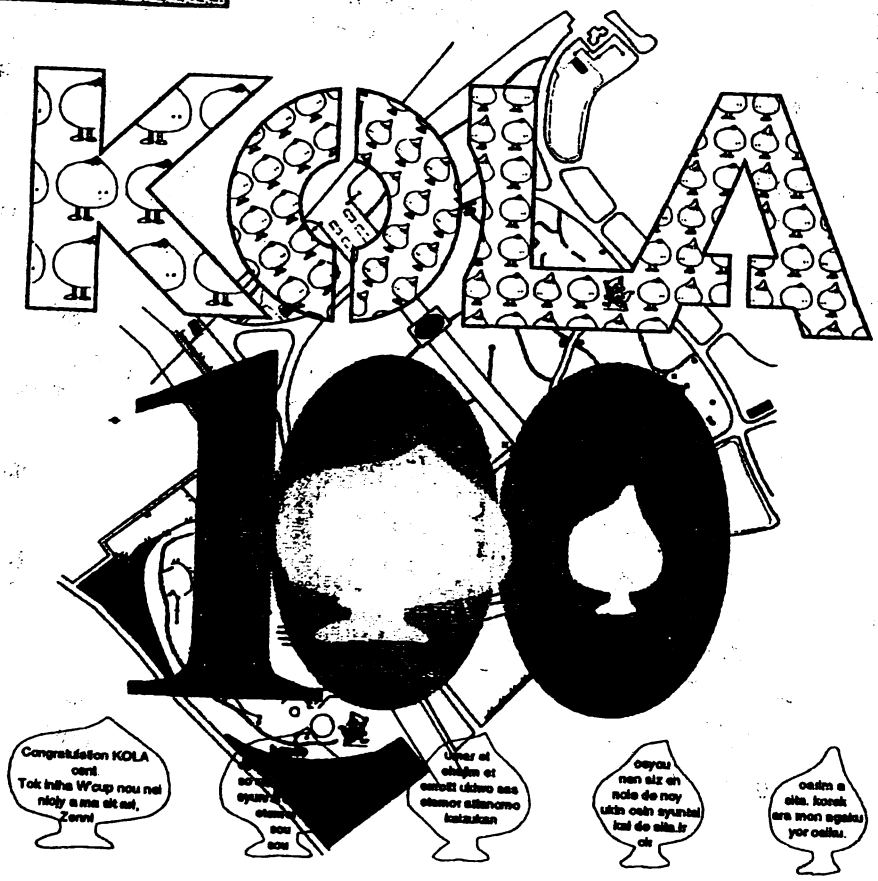
☆　心よりお祝い申し上げます。　☆

☆　1992. 1.28　☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

豊中オリエンテーリングクラブ
松井　喜章

KOLA100号記念投稿



神戸市 中央区 山本通3の18の24
滑 賢忠

ＫＯＬＡ100号記念投稿

前略

″９２　ＫＯＬＡ新春大会″の成績表と会報１００号記念ＯＬ大会の案内パンフご送付下さいまして有難うございます。先ずはお礼を申し上げます。

実は、厚かましくも１００号記念号に投稿しょうと原稿を書いて？（キーを叩いて）居た処でしたのです。

「また早とちりしてしもうた」。

これは先日の浜寺大会で第三ステージの途中で呟いた私の独り言。

大勢の参加者と一緒に走るのに慣れていない私にとって、初めての体験だったメモリーＯＬの第一ステージ・第二ステージを走った時点で頭がオーバーヒートしてしまい、第三ステージの地図を手渡された時に「充分時間が有りますよ」と言われ、「それなら先ず一番端っこ迄走れ」と、第一ステージ・第二ステージで走った方向に地図も見ずに走ってしまった結果でした。

これでどれ程の時間をロスしたのか考える余裕も無くなって、もう唯早くゴールする事だけを考えて走りましたが、タイムは一時間を軽くオーバーして終了。でも何故か至って爽やかな気分で帰宅しました。

それを帰宅してから考えてみたのですが、第一ステージ・第二ステージのメモリーＯＬを走った時の新鮮な楽しさ故ではなかったかと思えるのです。

其れ程、私にとって此のメモリーＯＬは実に楽しく、参加する迄は予想もしなかった其の体験の経過を今も思い出して楽しんで居ます。

先ず最初に同時スタートです。これも初めての経験でした。二番目に新鮮な感覚で走れるメモリーＯＬ。此にはダミー迄有って面食らいました。取合えず皆の行く方へ走ろうと決めたのが誤りで、まんまと罠にはまってウロチョロ。やっと憧れの地図を手にしてやれやれと気が緩んだのが私に取っては三番目の罠だった訳です。

今後も此の方式のオリエンテーリング大会が有れば又懲りずに積極的に参加ようと考えています。

当日の大会運営もスムースで岸和田オリエンテーリング協会の皆さんのチームワークの良さにも唯々羨望の眼（マナコ）で眺めるばかりでした。

処で、シンボルマークの《コラちゃん》は、ひょっとして泉南特産の玉葱では無いのかな？、等と楽しく想像していますが、外れですか？。

これからも健康と体力向上を目的として、出来るかぎり参加したいと思っていますので、いろんな楽しい企画を期待しています。

では、ＫＯＲＡ会員皆さんの健康とご健闘を願いつつ筆を置きます。ｵｯﾄ元え！。終了のキーを叩きます。

１９９２．１．２７

高槻市大畑町三一五
高槻OL同好会　室井孝介
☎ 0726-96-0451

西国３３ヶ寺観音霊場札所巡り　サイクルＯＬが終わりました

森　喜重

何か変わったことがやって見たくて、いろいろ考えた結果、西国３３ヶ寺霊場札所巡りをサイクリングで廻って見ようーと思い、掛け軸を背負い、２年前の９月母の命日を期してスタート。休日を利用し、サイクルＯＬと名前をつけて、テントをもったり、お坊さんを驚かせたりして、昨年１２月ようやく終りました。それを書いて見ます。

１、手始めに京都市及び周辺を廻って見る
近くの善峰寺への急坂をペタルを踏む、途中から歩き出す、更にきつく長い坂道を登り、山中の近道を亀岡市穴太寺(あのうじ)へ、国道９号線を京都市中京区の皮堂、清水寺から今熊野、大和街道を南下、宇治市の三室戸寺、早く廻りすぎたので奈良市まで足をのばすことにする。
２４号線を懸命にペタルを踏んで２時間少々で興福寺南円堂へ、スタミナが残っており、尻の痛さも我慢ができそうなので、元気を出して高取へ、あとは帰るのみ、気分よく、鼻唄まじりで２４号線、木津町から田辺、八幡市とペタルを踏んで２１時ごろ帰宅。

味をしめて夏、９号線を北上、丹波町で２７号線を舞鶴市松尾寺へ、そこからの眺望もそこそこに天の橋立成相寺への急坂を登る。宮津湾の眺望もさることながら福知山市への道にハンドルをきる、大江山の峠はきつかった。
９号線を競輪の選手になったつもりで一気にサイクル、しかし夜も１１時ごろ帰宅。翌朝　足腰が痛いか―― と思ったがどうもなかったので１日おいて、また出かける。

３、１７１号線を西下、途中から１７６号線にはいる、宝塚市から三田市へ、中国ハイウエイと交差する付近は坂道がきつくて歩き出す、武田尾付近を行きかう福知山線の列車が眼い目に美しく写ってくる。
三田駅でトイレ休憩と朝食、元気もりもり、午前８時前清水寺下の有料道路入口到着、料金徴収のおばさんが来ていない、しばらく待ったが「遅い１時間も待った―― 」など冗談を言っていると、通行料金を無料にしてくれた。
あの長い有料道路を懸命にペタルを踏んでパーキングに到着すると、早いせいか他の参拝者は一人もいなかった。
早いお参りで―― とお坊さんが感心しながら掛け軸に朱印を押してくれる。
お礼もそこそこに痛快なダウンヒル、この味が忘れられない。
東条湖ランドを横目に見ながら吉川インターの下をくぐり一乗寺、暑さを増幅する蝉が憎らしい、大きな伽藍をあちこち見学立派な伽藍の一部になったつもりで、ごろんと横になる。小野城址で戦国武将の悲劇を思い、ハンドルを姫路市の書写山円教寺へ、いつきても杉の大木そして大伽藍は涼しくて美しい。
エーイ　竜野市まで行ってしまえ―― とばかり、姫新線沿いの道を西へ、城山、トンボ荘などをまわって、さー帰らなければならない、時計は午後３時に近い。せっかくきたのだから高砂神社を廻ろう―― と南へハンドルをきる。
姫路市付近で２５０号線に出た、懸命にペタルを踏んで高砂神社へ到着、名にしおう相生の松は小さくて、これまで持っていたイメージは一遍にダウン。
しかし子どもたちの良縁祈願をしてまたペタルを踏む、明石市までの単調なコースとアップダウンに飽きながら明石港付近の市場へ行き、蒲鉾を買って腹ごしらえ、国道２号線、１７１号線をこれから約７０km、３時間で帰りたい――の目標を立てて走り出す、さすがに尻が痛い、芦屋川を渡る頃日没となった。１７１号線の伊丹市付近は単調で余り好かない。
さあ、もうひと頑張り――と高槻市へはいると婦人交通指導員に「歩道を走れ」と怒られた。

４、今度はテントを担いで紀伊半島一周だ。
早朝６時、スタート。四天王寺、藤井寺から槙尾山施福寺への長い長い道を喘ぎながら登る。
ダウンヒルもそこそこに和泉山脈の麓所、鍋谷峠を越える、厳しい。粉河寺門前で買い物を強制されていやな思いをしたけれど、草餅はうまかった。
紀の川沿いの２４号線は、塩を吹いている顔や身体に風が涼しい。
和歌山の紀三井寺はくたぶれた足で登る階段が疲にこたえる。
さあ、これから夜を徹して田辺市白浜、潮岬と廻って行かねばならない。眠たくなればテントがある、水分補給に熱したトマト、カルシューム補給に雑魚、そして食卓塩を舐めながら。大きな夕日を背にうけて有田、湯浅の町、峠をいくつか越えて御坊市に到着、食堂が開いていたので２度目の夕食を食べる。
心を引き締めて夜の熊野街道を懸命にペタルを踏む、星空と紀伊水道に揺らめく漁火が闇の空間にアクセントをつけて実に美しい。

田辺市で今日とお別れ、田辺駅へ行ってトイレ休憩、眠気覚ましに缶コーヒーを飲んで手足の準備運動も入念に行い、午前0時２０分、那智山青岸渡寺に向かってＧＯ――― 。

深夜の白浜は結構賑わっていた。

それからの熊野街道（大辺路）の海岸道路はトンネル、小さな峠などがアクセントをつけてくれる。鶏鳴より少し早く串本に到着、潮岬への坂道を懸命に登って公園に到着、ここでは３０分の休憩予定、しかし墨絵のような空模様が少々おかしい。

雨が降っては大変――と思い、懸命に先へと急ぐ。

本州最南端の潮岬からの朝の太陽を拝しよう――と思っていたが――― 残念、無念。

水の透明度で有名な古座川に掛っているカーブしている橋を渡る頃は、もうそこまで雨がおちてきているように思えた。

雨より早く走れ――――とばかり、ペタルを踏む、しかし雨の中に向かって懸命にペタルを踏むのだから、ついに紀伊勝浦駅付近で夜明けとともに大きな雨が粒となって落ちてきた。

なんとしても那智駅までは行きたい――― 、荷物にナイロン袋をかぶせ、身体はシャワーをのつもりで濡れて行く、頭から流れ落ちる雨水が塩からい。

ずぶ濡れでようやく那智駅に到着、

早朝の駅舎には誰もいなかったのでさっそくに更衣、終ったころに見覚えのある和歌山の青年サイクリストが濡れ鼠のような姿でやってきた、聞いてみると、田辺から熊野街道（中辺路）を本宮へ、新宮から海岸道路を今日中に帰らなければならない――― 、と、１５分ほど話して本降りとなった雨中を帰っていった。

実によく降る雨、何度も空を眺めて真夏の太陽を望むがムリ、気温が下がってきた、それに自分も濡れているので寒くなってきた。

駅員も利用客もいないので時間をかけて更衣、テントを身体に巻き付けて暖をとりながら待合室の椅子に横たわると、そのままグーグー。

昼頃目覚めても雨は同じように降っている、

仕方がないので雨があがるまで那智駅で待機――― と決め込み、食事に出かける。

翌朝遅く雨があがった、心踊り、肉わきおこり、那智山へサイクル、雨上がりの那智勝浦の町は昨日の雨で不要物や塵芥を洗い流してくれて、実に清々しい。そしてペタルを踏むリズムに合わせて名前も知らない多数の蝉が鳴いて応援してくれる。

予定より早く到着、長く緩いカーブと坂道を登っていくと土産物屋がオープンし始めている、苔蒸した古風な長い石段を登っていくと、所々から豪快に流れ落ちる那智の滝が見える。

那智の神様や観音様が自分に立派な滝を見せるために昨日大量の雨を降らし、周囲を洗い流してくれた――――、と解釈。

感謝、感謝をしながら西国観音霊場第一番の朱印を、本日第一番におこない気分は最高。

周囲の深い緑の中から白く豪快に流れる滝、それによくマッチする隣の熊野那智大社の朱色の建物、雨に濡れた檜皮葺きの社殿がきらめく朝日をうけて実に美しい。その風景にしばらく見とれ、はるか向こうの太平洋をみながら、――――アー、来てよかった――。と思う。

そして何時か読んだ「補陀落山渡海記」を思ってみる、そして渡海を実行した和尚さんの心境を思って見る。

滝壺口まで行ってみる、水量豊富な１００数メートルから落ちてくる滝の水に圧倒される。頭からビショリとしぶきに濡れて寒くなってきた。

約3時間後帰途につく、豪快にダウンヒル、一気に那智駅まで帰ってきた。海岸を縫うように連なる国道４２号線を新宮市に向かう、目指すは熊野本宮と新宮。懸命にペタルを踏んで、午後3時過に本宮の熊野坐大社の参拝を終え、少し離れている元本宮への道を歩みはじめる。

十津川べりにあった元本宮は、よく水害にあったと言う、その為徳川時代に現在位置に遷座されたと書いてあった。

周囲が夕景に包まれようとするころ朱色の社殿も鮮やかな新宮、熊野速玉神社に詣でる。新宮市内で夕食をとり、トマトや煮干しを買い込んで不眠のサイクリングの準備をする。

熊野川に架かるながーい鉄橋から見る熊野灘に沈む赤い大きな夕日に見とれて、余りの美しさに暫くは自分を忘れて見とれてしまう。

完全に夜となった。

熊野川を渡りきって暫く行くと、アレ――――― 、道が無い。

戸惑っているとライトをつけた自動車がきた、すると正面に道路標識が読める、アレーッ、くるりと廻って直角に描かれている、道理で道が見えなかったわけだ。

御浜町の松林からこぼれるように鼻をついてくる潮騒と潮の香りに刺激されたのか急に空腹を覚え、小さな食堂で２回目の夕食をとる。

日付けが変わる時刻に熊野市から大きな峠道にかかる、ゆっくり行こう――― と覚悟を決め急坂すぎてペタルを踏めない、

仕方がないので歩く、小坂峠と書いてあったが超大坂峠だー、そんなことを思いながら時間をかけて登って行く、トンネルまでの長かったこと。
ようやく下って行くと道路が分かれている、頭上に標識がある、が、暗くて読めない。自動車がくるまで休憩、持っている食料を食いながら待つ、所々に民家の明かりが見えるが周囲は暗闇の世界。峠を下ってくる自動車のヘッドライトが見えてきた。

民家の明かりが多い方は奈良県北山村から大淀への道、自分は４２号線を尾鷲市から鳥羽市方面へ向かわなければならない、自動車のお蔭で方向が判ったが、進行方向への自動車はまたまた大きな峠に向かうのか次第にライトは目線の上の方に登って行く。

アー、また登るのか――― 、そんな思いでペタルを踏み出したが、急坂過ぎて直ぐに歩き始める。もう２時になろうとしている。

大きな山を幾つも越えたような気がするほど山の中を縫っている４２号線を歩き進んで、また大きな山の概要がぼんやりと見えてきた。

あの山のどこを越えるのか――、頂上付近まで登るのか――― 、迂回して行くのか―――、不安に思いながら進んで行くと前方にランニングシャツにパンツ姿のランニングスタイルで歩いている人に追いつく、話しながら登って暫く行くと、全長4㎞強もある大又トンネルが大きな口を開けている。

トンネルの入口で２人とも座って休憩をしながら語りあう。

大阪市西淀川区からきたＹ氏は

来３月末で会社を定年退職、何か記念になることをやりたい――― その思いからランニングで日本一周をやろう――と考え２年かかってこのようにスケジュールを作った――― 。

と言って１００枚を超える日程別の道順やビッシリ書き込まれた目標時刻表を見せてもらう。そして小さいリュック一つを背負っている、それは雨具や着替えが入っているだけ、あとは郵便通帳とチリ紙、汚れたシャツや靴下は捨ててしまい、無くなれば購入する。時々家に電話をいれるが、旅館には一泊もしないつもり―――と聞いて。

アーー自分よりうわてがいた――― と感心すると同時に、意気投合。

これからの生涯、励ましあってそれぞれの目標に向かって協力しあうことを約束する。

峠の山道を話しながら歩いているとまた前方にトンネルが大きな口を開けて待っていた。

矢の川(やのこ)トンネルである、このころになると朝に相応しい冷え込みがあった。

約4㎞もある長いトンネルが２つもあるということは、それだけの山岳地帯なのだから――と思い、ようやく明けてきた空を見ると、高い山頂に朝日が届きかけてきた。

矢の川トンネルを出てＹ氏と別れ、超豪快なダウンヒルで尾鷲市へ下った。

まだ皆さんが起きてない時刻に通過するのが惜しいので、ハンドルを右にきって市内観光としゃれこむ。

港までの道をスピードをあげて下っていくと、左側に小さい史跡公園があった。

自分の中の何かが「史跡公園に立ち寄れ――― 」と命令してきたので、通り過ぎたが引き返す、案内板には「南朝の――」と書いてあった、史跡を一つずつ確認しながら進んで行くと一番奥の石碑の前に男性が一人参拝している。
「お早うございます」の朝の挨拶をすると、参拝を終えたその人と目線が合って、お互いに驚きの声を同時にあげてから、しばらくは懐かしさのあまり声も出なかった。

その彼は４０年も前、大学は違ったが、同じ下宿の隣部屋で大学生活を送っていたＡ氏だったからであった。卒業後エリートコースを進んでいたＡ氏、いつか入院と聞いてから音信不通だった、そんなＡ氏にこの史跡で出会うとは――― 感無量。

尾鷲市の大地主の邸宅を外からでもよいから見ること、この家は大山林王とも言われ、尾鷲高校やこの先の国道なども屋敷の一部だった、さらに大台ヶ原付近までの地主、代々女性しか生まれなく養子さん、現在は岐阜県から見えている。相続税が４０億円を超えている、それを年賦で２億円ずつ払っている、その現金を得るために毎日大木を伐採している。

またその家の仕事をしてきた家が３００戸以上、みんなあそこの集落に住んで昔からのつながりを大切にしていた。今はだいぶん違ってきているが―――。

などなど教えてもらう。彼は「今朝目覚めると、ここに来い、と誰かが命令しているようだったので来た――― 」と話し、それにしても不思議な出会いだった――。とつけ加えた。

彼は出勤前だったので再開を約して自分は教えてもらった道を大地主の家に向かう。

大きな大きな家の本家を一周り、同じような分家を廻って、尾鷲の市街はこの両家があってこそ成り立っていた時代があった―――のだろうーと思った。

観光もそこそこに４２号線を東の坂道を登り始める。きつい坂道の頂上には尾鷲トンネルが大きな口を開けて待っていた。
海山町の古老に出会って歴史を聞いたり地勢の疑問を尋ねたりして紀伊長島町の２差路に着いた。

左は松阪市への４２号線、右は志摩半島周回道路の２６０号線。

帰りの時間を逆算して２６０号線にはいる、すぐにきつい登り、下りの連続、そしてリアス式海岸特有の時折海を眺めながら、夕方５時までに近鉄志摩線磯部駅まで――と、ようやく痛くなった尻を庇いながら、景色を愛でることもなく、ただ前え――前え、とペタルを踏む。

予定通り磯部駅到着、マシンをたたんで京都駅着最終の特急電車に乗る。

あー、楽しかった、居眠りをしながら、出発してからを頭で反芻してみる。

５、札所　第３３番谷汲山華厳寺へ

残るは滋賀県方面だけ、またまたテントを担いで出発、伏見の上醍醐寺へ、山頂にあり石段が長いとも聞いていた、醍醐三宝院からの参拝道をサイクリングで行くことにする。

参拝するどこかの高校生１００名強に追いつき、階段をマシンを担いで登り始める。

途中で高校生の集団が追い越して行く、驚嘆の声が聞こえてくるが、担いでやろう―― と言う高校生は一人もいない。

山頂の平坦な道にかかると、今度はこちらのベルを鳴らして涼しい風を身体一杯に受けて到着。本当の山道をマシンを担いだり、乗ったり歩いたりして宇治市笠取へ下る。

そこからまたまた山道をマシンを担いで登る、途中の所々が台風で壊れ道が無いところがある、そんなところは山の中へマシンを担いで進む。

ようやく山頂の取り付け道路に到着、元気そのもの笑顔で岩間寺へ、お坊さんが

「上醍醐寺から岩間寺へ徒歩で参拝される人はありますが、サイクリングで参拝されたのは、開闢以来お宅が始めてだと思います。、寺の記録に残しておきます。」

との言葉をもらい、ながーいダウンヒルのあと石山寺到着。

源氏物語の執筆舞台も見学して、湖岸道路を三井寺へ、内紛があるが、私たちが読まない方がよいと思える看板がアチコチにあって嫌だった。

お坊さんの世界が古今東西厳しいのかな――と、思い、湖岸道路を東へ今度は大江八幡市の長命寺へとペタルを踏む。細く少々傾いた長い石段は、ともすると踏み外しそうである。

吹き渡る湖水の風は陽にやけた肌に涼しい。

懸命に引き返して安土城跡を見学、その横に聳えている観音寺山の観音正寺への道にはいる。麓の桑実寺に住まざるを得なかった戦国時代の足利将軍の心境を観音正寺への山道を登っていく佐々木一族の心の故郷の石碑もあり。さらに小道を進んでいくと観音正寺の裏に到着、朱印のあと住職から「ミイラを見ませんか」と教えられ、早速拝観料を払って見せてもらう。

走って安土まで下山、彦根に急がないと竹生島に渡れない――急げ――とばかりペタルを踏む

彦根から竹生島への最終船に間に合った、宝厳寺は豊臣秀頼寄進とあった。

夕日が西の山に沈んでから彦根に帰ってきた。

さあーこれから夜を徹して岐阜県谷汲村へのサイクリング、夕食を確り食べて、トマトなどを買い込んで午後８時国道８号線を米原から関ヶ原、大垣、穂積から進路を北にとる予定。

朝８時には到着したい、そんな思いでペタルを踏む。

谷汲山華厳寺、３３番目のこの寺は立派な門前町が開けており、寺の境内からは美しい水が湧きだして、参拝者はその水で喉を潤し、持ち歩いて杖や草鞋を納め、元気であったことを感謝し家族の健康を祈り、先祖の供養を願い、満願の喜びに浸って帰途につくのである。

時間が進むにつれて参拝者がドンドン増えてくる。

朱印を終えた嬉しさに心も足も軽く、尻の痛さも忘れて、掛け軸を背負い、ルンルン気分でもと来た道を帰途につく。

後日談

秋　朱印の掛け軸を表具屋に持っていた、２４金の使用の錦を使用すると、１０万円を超えると言う、チョッと迷ったけれど、安いのですると、銅が多いので数年すると黒ずんでくると見本のようなものを見せてもらう。

やっぱり良いものは良い、結局上等な表装をすることに決める。

１２月に出来上がったとの連絡があった、心を躍らせながら持って帰る。

床に掛けてその出来具合を満喫、朱印ひとつ一つに思い出が残る。

年が改まって１７日は父の正月(つき)命日である。親戚を呼んでみんなで父が観音浄土へ早く到着するように祈りたい。

聞くところによると、新西国３３ヶ寺観音霊場、秩父３３、坂東３３ヶ寺霊場もあるという。そして四国８８ヶ寺霊場札所巡りの巡礼もやりたくなると、その人は教えてくれた。

いつの日か、やって見たいと心に欲張りを持ち始めた、観音霊場札所巡りの満足度２００％のサイクリングでした、これを勝手にサイクルＯＬと呼んでいるこんにちです。

年を取ると振り返ることが趣味になって来ます！？　　いえいえ若くとも、ここは振り返る記事が必要なんです？

第１００号という数字に思いを寄せて

やっと来たかとの思いと、よくぞ続いたなぁとの思いがいま交差します。会報を発行しだした頃は一生懸命ガリを切って、手を真っ黒にしながら悪戦苦闘…それも奇麗にできればまだしも、今読むのも恥ずかしい限り。おまけに二月三月遅れはざら、ひどい時には年一回という時もありました。それが…と言うのが正直な気持ちですね。

また今思うと、その頃ガリの用紙を買ったことが無いのがすごいですね。いつも会員の誰かが提供して戴いていたんですね。“ガリを切るのは大変だよ、遅れるのもカンベンな”- なんて言うと手書き用紙（ボールペンでそのまま書ける用紙です）をドサッと持って来たりしてくれました。

突然ですが、近畿のＯＬクラブで会報を発行している中で第１００号を経過しているのは、ＯＬＰ兵庫《ミスパンチ》、大阪ＯＬＣ《大輪言》、そして京都ＯＬＣ《鉾》の３誌では無いかと思います。
すごいですねェ～！もちろんＯＬの実績、会報の内容とも抜群の各クラブですが、私達のＫＯＬＡも、数字では近づくことができたのかな。ヤッホ～

会の発足時から在籍している関係から、昔の書類をひっぱり出して記録を調べたりしています。いろいろあったんですね。大会の開催も、子供会や企業等の行事主管を省き、純粋に参加者を募集してしたものだけを数えて、今年の新春大会で４９回目。３月の第１００号発刊記念大会は、また大会開催５０回目記念とも言えるんですねぇ。大会の名称を見ても一つ一つ思い出があります。山岳連盟の中に位置していた初期のころは、市民体育祭には大会開催が義務つけられていたこともあって“市民体育祭ＯＬ”、青年会議所と合同で“ＪＣ大会”予算も動員力も大きく、毎回３００人～５００人という参加者を集めていたんですよ。その後、会員を増やそうとＯＬのバリエーションに工夫し“おもしろＯＬ”を手掛け、これが今の《新春ＯＬ大会》となっていったものです。また、ＯＬに興味を持って貰うためには機会を多くなくてはと“なうスポーツＯＬ”と銘打って年３回の大会を企画したりしていました。そんな活動が、いまのＫＯＬＡを作って来ているのだと思うと“つくづくいろいろあったなぁ”の言葉になってしまうのです。

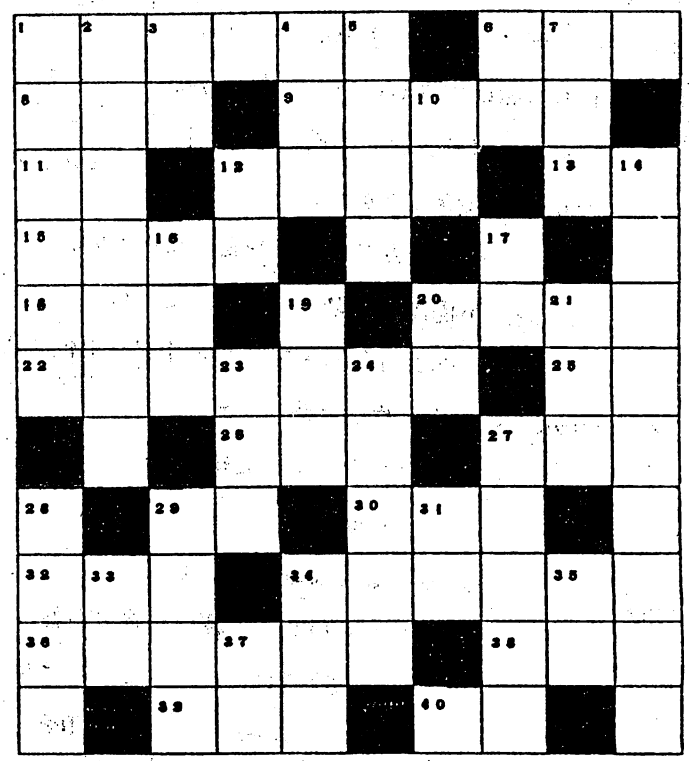
ただし、会員の増加にいろいろ工夫してきて、今年から方針を変えようと思います。まず自分自身・現会員がもっと楽しみ、ＯＬの実力、実績を作れば自ずと会員は増えるのではないかと思います。興味を持っている方がいるのなら、大きな大会にどしどし連れていって最初にＯＬの面白さを味わって貰うようにするとか…などなど。　１００号を振り返ると共に、今後のＫＯＬＡを考えるのは、もっと楽しいものです。みんな頑張ろうよ！　　＜瀬戸＞

究極のＯＬクロスワード　　--出題者　寺田　保--

横のカギ

1、インデアンサマー。
6、ギリシャ字母の第９字。 I
8、二人組。
9、ヤング○○○○○はもうないか？
　○○○○○番組は今もある。
１１、理科の実験で使った
　円形の紙。
１２、庭園などで、山をまねて
　土砂等で築いた小高いところ。
１３、○○の下＝　bribe　.
１５、我が会長もこの部類に入るか。
１８、最高の栄誉。
２０、ユーフラテスと合流する川。
２２、地図上の限られた情報を
　越えた地図読みといえば。
２５、しがらみ。
２６、地中海のフランス南部から
　スペイン国境付近までの湾。
２７、会計。○○○課。
２９、男子の美称。↔姫。
３０、すべての物質は高温、低圧
　でこれになる。
３２、性的魅力を俗英語で。
３４、フランシスコ＝ザビエルと
　いえばこれ。1549年鹿島へ来る。
３６、オーストラリアでオリエン
　テーリングとは別に発達し
　た地図とコンパスを使うス
　ポーツ。
３８、○○○絵。○○○風呂。
３９、着物の原料。
４０、腿、膝、脛、踵。

賞品付　抽選で３名様に１９９３年度
ＫＯＬＡ主催“新春ＯＬ大会参加無料券”進呈
解答送付先－〒596岸和田市小松里町477-2　横田　実



縦のカギ

1、短歌雑誌の名、佐佐木信綱が創刊。
2、吉備路７１号から、関西朝日ＯＬ、
　ＨＡ優勝者が大会の後行った所。
3、ふりがな。
4、江戸の町奉行の配下の呼び名。
5、ビルの屋上はこれ。
6、ＪＩＳ漢字コード３０５８番。
7、正月に飲む。
１０、祈願成就のお礼に奉納する。
１２、○○とも柱とも頼む。
１４、位置説明。
１６、洋式で座るところ。
１７、テトロドトキシンに注意。
１９、猪の別名。
２０、'６８年イギリスのケン・ヒューズ監督ディック・
　ヴァン・ダイク、サリー・アン・ハウズ出演、ポン
　コツ車が空を飛ぶミュージカル映画。その題名は。
　前二文字。
２１、災害にあうこと。
２３、イワシ類の幼魚を煮て、天日等で乾燥したもの。
２４、最近のＯ-JAPANのフレーズ。
２７、事物の性質、状態等を表す語。
２８、ケニアの首都。
２９、休まずたてつずけにすること。もう○○○○で
　ゴールだ。
３１、「荒城の月」の作者は。姓のみ。
３３、櫛はこの木で作られた。貝塚市の名産。
３４、都を他に移すこと。
３５、乾季の反対。
３７、○○妻。○○潟。

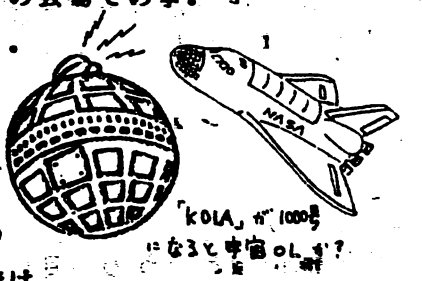
寺田保さん

全部完成したら文字の中から、いくつのポストがとれますか。またそれらは何ですか。ポストは特徴物、特徴部につけられているものとする。（例）サワ、タテモノ等、ことばを捜してください。一度使った字は二度使えません。

楽しいＯＬ

―寺田　強―

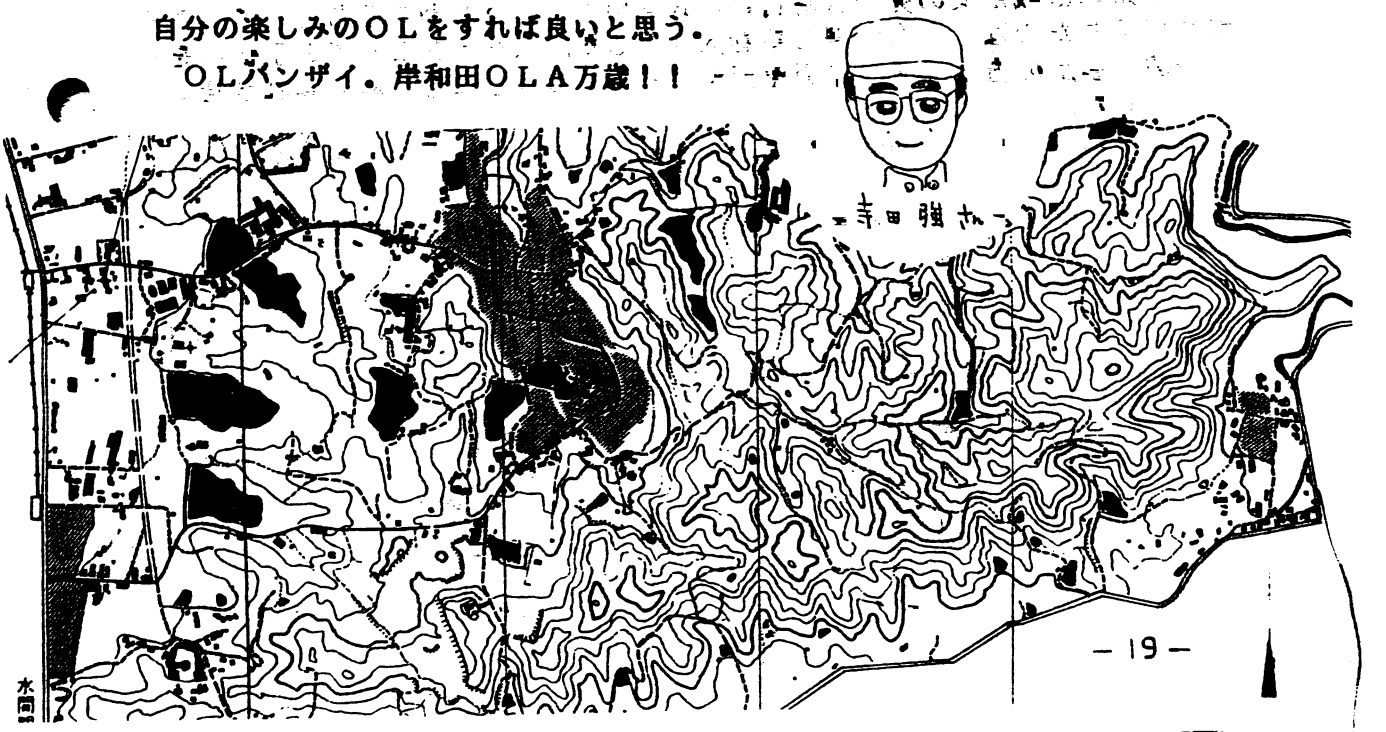
岸和田ＯＬ協会というのを知ったのはもう10年前になるか？
近くの中央公園で市民フェスティバルがありその会場での事。
ＯＬと言う言葉は知っていたが実際の参加は０。
その時から泥沼か、僕には珍しく続いている。
参加も大会開催も楽しい。でも参加が楽しい。
私のＯＬは気分転換用だ。ふだんスポーツと
いうものをしないのにこの時だけはよく走る。
夏場にはゴールでビールが待っている。これでは
逆に健康に悪いのではないかと自分で思う。それでもゴール後の地図を見
ながらの「ワイワイ」が楽しい。遠くの大会もたくさんで行けばなお楽し
い。ＯＬで友達もできたし、今後も続けれるスポーツの一つと思う。



大会の内容を考えることも楽しみの一つか。あの時はこんな大会だった
から今度はこれでいこうか。「えーい」地図３枚のステージはどうだとか。

これも皆で「ワイワイ」できる。元来「ワイ
ワイ」することが好きな性格なんだ。岸和田
名物の「新春大会」も好評である。これも各
地での大会に参加してみると一層いろいろな
アイデアも湧くようだ。

それでもＯＬの魅力をと言われると返事に困るが、私は「楽しいＯＬ」
が最高だと思う。要は楽しいからするのであって他にはなにもない。各自、
自分の楽しみのＯＬをすれば良いと思う。
ＯＬバンザイ。岸和田ＯＬＡ万歳！！



ＫＯＬＡと私

私がオリエンテーリングというものを知ったのは、信太山の自衛隊の演習場付近を、ゼッケンを付けた親子連れが地図を片手に歩いているのを、仕事中の車の中から見たのがきっかけで、一度参加してみたいと思ったものでした。

それからしばらくして、何かで開催を知り（場所は忘れましたが）申し込んだのですが、後日、同窓会の知らせが届き、同じ日に重なってしまい、子供達に訳を話すと「オリエンテーリングはいつでも行けるが、同窓会はめったに無いものだから」という訳でこのときは断念。

その後またしばらくして開催を知り参加したのが水間での大会でした（これがオリエンテーリング初体験）。このとき主催していたのがＫＯＬＡでした。

ＯＬの開催情報というのが耳に入りにくいので、会員にでもなれば情報も入るだろうという気持ちで会員募集に申し込んだのでした。

が、入ってみると、情報というよりいろんなお手伝いの要請やらばかりでした。これでは私の入会の意図と違うので、家内の実家の商売を引き継ぐので当分顔を出せそうに無いから脱会をさせて欲しいとお願いをしたのですが、会長（瀬戸氏だったと思う）が「当会は貧乏な会だから、会費が要る、会費だけ納めてくれれば顔は出さなくてもいいから」と、妙な説得のされ方で残ることにしたのです。

それが和歌山からこちらに来て友人が一人も居なかった私にとって素晴らしい友を作ってくれる結果となったのでした。

私の手元にには６７号からストックされています。それまでも送ってはくれていたのですが、前述のような事情で性根を入れて読んだこともなく、又、現在のように毎月発行もされていなかったようにも思います。それで３年前の６７号からしか残っていないのです。

ＫＯＬＡに入会して約８年、いろんな事がありました。３月末当地では考えられないような大雪に見舞われた、神於山府民ＯＬ。そして当会以外の方々の協力を得て開いたウエスタンカップ。一部不成立というミスもありましたがどうにか成功。また初代会長、平松さんの死。そして私事ですが家内の父、祖母の死。そして昨年末には我が父の死。大晦日に葬式を出すという悲運で落ち込んでいた心を慰めてくれたのは、当会恒例の新春大会でした。スタッフとしてお手伝いをして、多数の参加の方とワイワイガヤガヤやっているうちに悲しみも忘れさせてくれたのでした。

このようにＫＯＬＡの仲間は私にとってかけがえのない存在となったのであります。

これからも子供達と行けるときは家族組で、子供がだめな時は女房殿と2人で混合組とトリム一筋で頑張りたいと思います。

えす・えぬ

“ＯＬは参加することに意義がある”

中井さん

私とオリエンテーリング

永瀬　真一（岸和田ＯＬ協会、東工大つばめ会）

私が初めてＯＬと出会ったのは、中学一年（1981年）の秋の遠足のときである。この遠足の行き先は、紀伊風土記の丘だった。午前中に資料館を見学して、弁当の後、オリエンテーリングをしたはずである。ＯＬといっても10人位のグループでまわり、先生のいるポストで問題に答え、所要時間が基準の時間にどれだけ近いかで順位を競ったような記憶がある。ＯＬと言うよりウオークラリーに近いのだけれども、あの白とオレンジのポストフラッグだけは鮮明に覚えている。

翌年、中学二年の林間学舎で曽爾高原へ。そこでは、確かに、スコアＯＬをした。ちゃんとした地図は残っていないけれども、しおりに綴り込まれていたガリ版の地図は、今も手元にある。もっとも競技の方は、グループの大勢がのんびり派だったので宿舎の近くを一回りしただけで終わっている。最初にコンパスも渡されたのだけれども、正置のときすら使った記憶がない。

その後、もう一度、オリエンテーリングをしたいと思っていたのだけれども、その機がなかった。神於山にパーマネントコースがあることも知っていた。しかし、地図の入手方法およびコース図がどこにあるかもわからなかった。（神於山へハイキングに行くと、まず、緑と太陽の丘でポストに出会い、神於山の中でもポストを見るのだが‥‥）

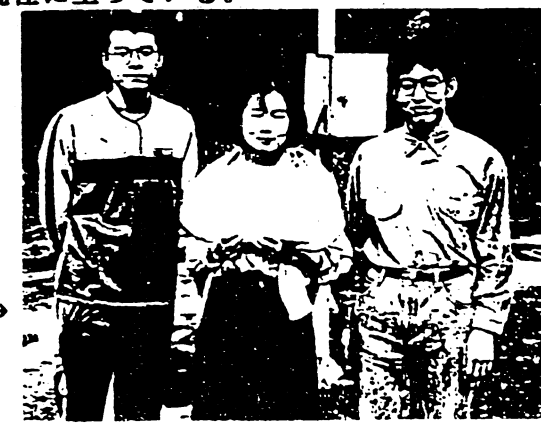
1987年４月、東京工業大学に入学。５月にオリエンテーリング部（当時東工大ＯＬＣ、88年度より東工大ＯＬＴ）に入部した。その頃の東工大ＯＬＣの活動は低調。私は先輩にＯＬについて教えてもらったことがない。にもかかわらず、Ａクラスに出場しては３時間かけて宝探しをやっていた。（それでもちゃんと完歩していた。）

そんな私が人並みの成績が残せるようになったのは、89年３月、関東学連の地図調査合宿に参加してからである。この合宿で得たものは、他大学に知合いができ、そして、等高線が読めるようになったことである。（ちなみにそれまでできたのは、道をたどること、植生をみること、コンパス直進である。）このおかげで、今まで、Ｂで規定がやっとだった私が、５月に第12回サン・スーシ大会でＨ19Ａでゆうゆう規定をとれたのである。

岸和田ＯＬ協会（ＫＯＬＡ）との出会い。大学３年のとき、Ｏ－ＪＡＰＮのカレンダーをながめていると、ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会が載っていた。そのときは、岸和田にもＯＬのクラブがあるんだと嬉しくなっただけで、正月までＯＬをやろうとは思わなかった。一年後、卒研で忙しく、リフレッシュにＯＬは欠かせなかった。そんなわけで、正月に実家に帰った際にも、新春大会（at水間）に参加。いつもの大きな大会と違ってアットホームな雰囲気、瀬戸さんとの会話。大阪に帰ってきたらＫＯＬＡに入ろうと思うようになる。

91年３月東工大を卒業。大学院に進学したので、４月からも、東京にいるのだけれども、視野を広げたくＫＯＬＡに入会。そして、現在に至っている。

プロフィール
永瀬　真一　　1968．8.31．　堺市生まれ。
1979（小学５年）より岸和田に住む。
1981　ＯＬを知る。
1987　東工大ＯＬＣ（現東工大ＯＬＴ）に入部。
1989　第11回朝日大会H19-20A2 113人中15位
1991　岸和田ＯＬ協会に入会。
　　第14回京葉大会H21A1 76人中25位



→東工大ＯＬＴの後輩と。左が私→

横田実とオリエンテーリング・KOLAとの関わり

KOLA100号記念ということなので、ぼくとKOLAとの関わりを書こうと思います。でもまずその前に、「オリエンテーリングとぼくとの関わり」について書きます。

ぼくがオリエンテーリングと本格的に関わるようになったのは、中学校の教師になってからのことです（1986年）。たまたま新任で赴任した和泉市立郷荘中学校。ちょうどぼくと入れ替わりで出られた池田先生（大阪OLC）が、受け持っておられた「野外活動部(GOLC)」の顧問を引き継いだのが、そもそもの関わりの始りです。

最初は「野外活動部」ということだったので、大学時代にやっていたワンゲルに似た活動（山登りやキャンプ活動）にしたかったのですが、費用・日程などいろいろな面で中学生には負担が多きすぎました。そこで、手軽に野外活動が楽しめるということで、池田先生がずっとやっていたOL中心の活動になっていきました。

初期のOL活動は、どこでオリエンテーリング大会が行われているかわからず、池田先生に情報を送ってもらったり、新聞の行事欄に載っている大会に参加をしていました。この新聞欄に豊中OLCの大会が頻繁に載っていたので、松井さんなど豊中OLCのお世話になる機会が増えました。また、松原市民OL大会にも定期的に出るようになり、毎月1～2回程度のOL大会に出るようになっていったのです。この間にも、ハイキングなどちょくちょく出かけていたのですが、「自然にどのように接していいか」を教えるのを怠ったため、生徒たちの興味は「自然を愛でる」ことよりも「OLでの競技」になってしまいました。

このように、オリエンテーリングとの関わりが深くなり、ちょっと専門的な知識がほしいと思うようになったとき、3級指導員の資格修得の機会があらわれました。それが、ぼくの覚えている限りの最初のKOLAとの関わりです（1989年）。泉佐野で行われた1次講習会。まぁ、瀬戸さんのうんちくを聞かされたようなのですが、今はあまり頭に入っていません（すいません）。それより、上郷を走り回ったことが印象に残っています。

それからは、大阪OLCの主催する「ザ・コンペ」（最初は『チャレンジ2000点』が始りだった）に出たり、全日本大会にまででかけるようになりました。1990年の5月号の『KOLA』から編集長ということになり、現在に至っています。

もしかすると、4月に転勤があるかもしれず、そうなれば、今のクラブを続けることね少々難しくなるのではないかと心配です。また、個人としてはどれだけ楽しめるのかも不安です。しかし、これからも元気一杯で頑張っていきますので、よろしくお願いします。

１番ポストはＯＬの最初の扉　・・・山岡　完司

私とＯＬの出会いは、３年前走ることに少し疲れを感じる頃であった。興味があった訳でもなく、仕事の都合上一度は経験しておいた方が良いのでは、と言う安易な気持ちで入会した。

入会後、瀬戸さんより何度か大会参加の勧めがありながらも、足を踏み入れることはなかった。その理由は、私の頭の中には“マラソンに比べＯＬは…”と言う気持ちがあったことは確かだった。ちょうど去年11月の入院中のことである。瀬戸さんより“『第３回淡路ＯＬ大会』に出場しないか”と言う勧めに、少しこだわりとためらいながら参加すると伝えた。しかし、大会１ヶ月前位から“コンパスと地図も使えないのに大丈夫か”と自分自身に問いかけながら少しづつプレッシャーが高まって来た。

前夜の交流会に参加し、『みんな友達』と言う雰囲気の中で、ＯＬにはマラソンに無い暖かさを感じた。交流会後、宿舎で瀬戸さんや会員のみんなにアドバイスを受けた。だんだん自分の心の中に緊張の高まりを感じながら、眠れない床についた。

スタート地点に並んだ時、緊張は最大に高まっていた。昨夜のアドバイス（１番ポストをゆっくりでいいから確実に見つけること）を心に言い聞かせながら走った。迷いながら見つけた１番ポスト！これは、私がＯＬへ入っていく最初の扉であったように思える。

地図とコンパスを手に思わずガッツポーズでゴール！心の中は既に次の大会へと向いていた。

私のオリエンテーリング　　村橋　和彦

ＯＬを本格的に始めて（ＫＯＬＡに入会してから）１年足らず。ＯＬを始めた頃より大分ＯＬ考及び楽しみ方が変化しているみたいです。
最初は誰でも同じ様なきっかけだと思いますが、子供の頃の宝捜しみたいな遊び（スポーツ）に引かれて、のめり込んでいきました。ＯＬに参加するたびに、少しでも皆より早く成りたいと思う様に成るのです。９１年の６月頃より３km程だが毎日走って脚力作りに取り組むのです。（現在も実行しています。）最近Ａクラスに参加する様になってＡクラスのレベルの高さにとても付いていけず、今の所自分の目標として中位の所に照準を合わせて居るのですが、今だに達成されません、早く達成して次の目標を作りたいものだ。

北川さん

１００号おめでとうございます。私もＫＯＬＡに入学して、早４年目を迎えさせて戴きました。３級公認１次講習会をご縁にこの会に入会させて戴き、私の考えていたライフスタイルの本当のスポーツだと思っています。現在の社会状況の中で自然と親しむ機会のない中で、人間が自然の中で自然の恵みにより生かされていることをいつも考えている中で、自然を大切にしているオリエンティアの精神が私のポリシィにピッタリでした。

ＯＬとの出会いは、今から１０年前のキャンプで生徒３５０人全員にやらせたのが最初でした。その後も遠足等で岸和田神於山のパーマネントコースを利用させて戴き、それがきっかけで非常に興味をもっていた中での講習会でした。講習会でも楽しくご指導して戴き、それがさらにきっかけとなり、さらに瀬戸さんに引っ張られナイトＯＬ、岡山の大会、三重の大会と連れて戴き毎回々楽しい人生の思い出を作って戴いています。

これも協会に入っているご先輩方のお陰だと感謝している日々です。ＯＬをされているご先輩方これからもよろしくご指導ください。さらに若い方々、ＯＬは自分が実際にやり、自分が楽しくやることが大切なことだと思います。どんどん楽しもうではありませんか。

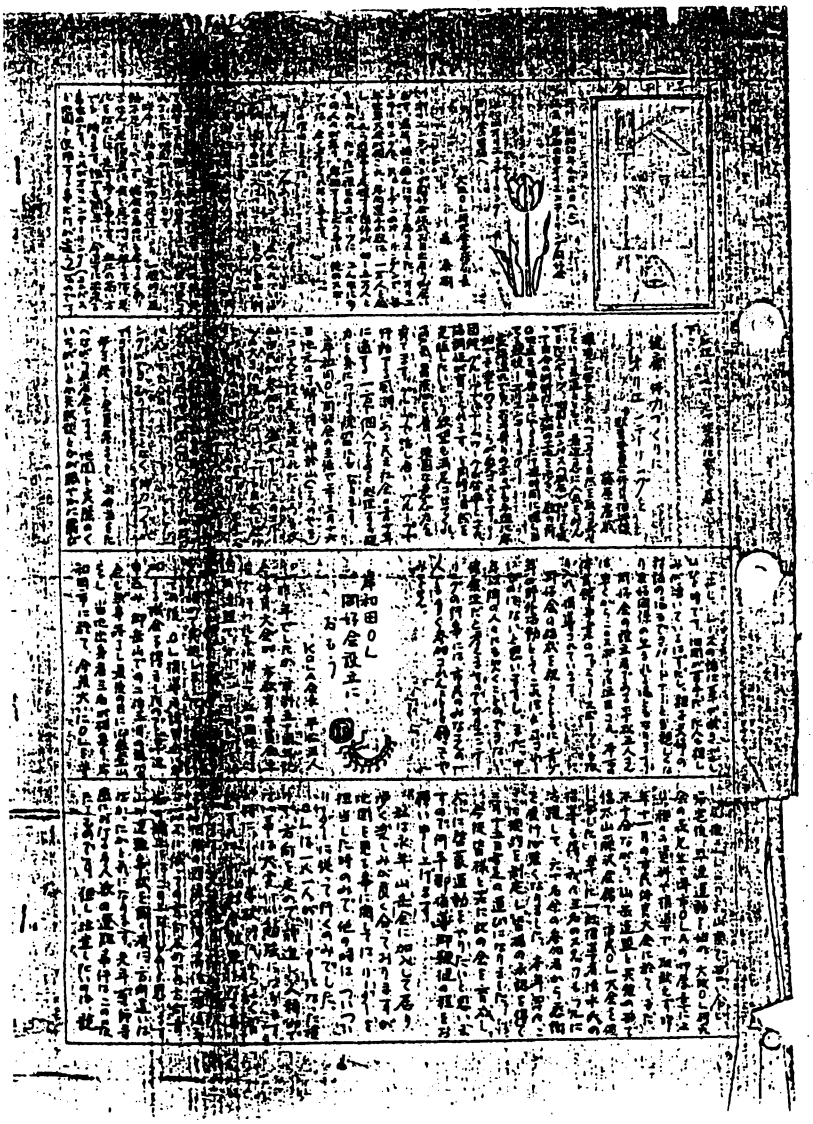
北川　一夫　＝　淡路ＯＬ大会、南海荘にて<92,2,15PM8:50>

機関誌「KOLA」の歩み

B－4版のガリ刷りから始まった会報も100号となりました。「KOLA」から抜粋してみました。なつかしい記事、ユニークな試み、記念すべき事柄等々。　今後も皆様の協力により機関誌の発行を続けたいと思っております。ますますのご指導、ご協力お願いいたします。

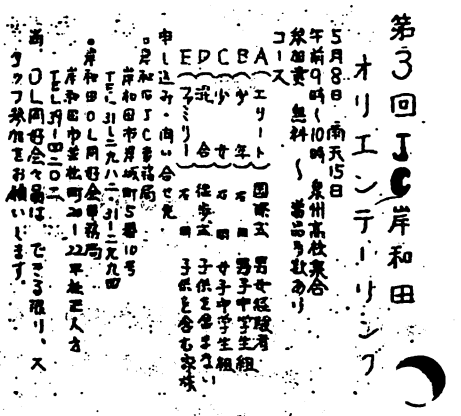
記念すべき《創刊号》

B－4版　2ページ　昭和50年4月12日



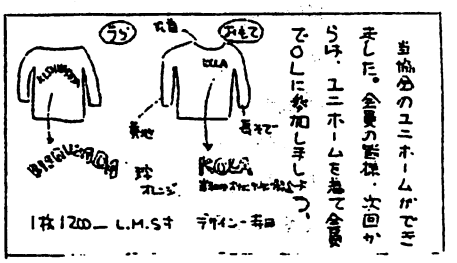
「9号　52年4月」

JCとの合同大会



「19号　55年7月」

ユニホームが出来る



「２９号　５９年６月」

故　平松氏のＰＣ点検記

神於山パーマネントコース　点検記

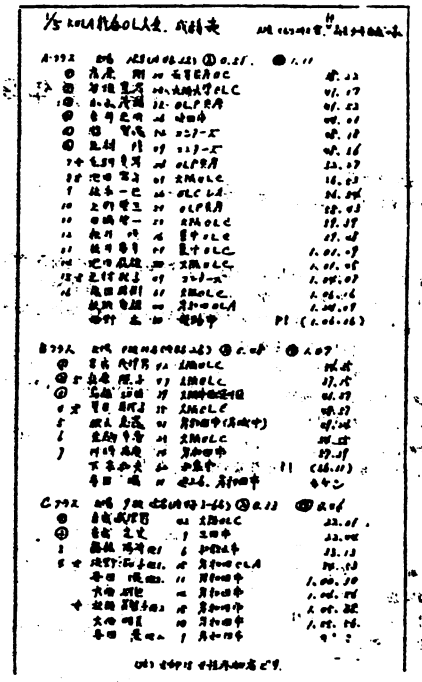
平松正人

コース再開後、初めてのコース点検を小雨の中でやった。例によってマスターのある公民館前の原酒店で生ビールを仕こんで出発した。一人と云うのは誠に気楽でいいが家を出るまで、中なかフンギリがつかず困る。誘う人がないから決心が鈍り勝ちだ。重い腰を上げると動きだす。

（1）は聞いた通り撤去されている。地主の三ケ山レンズが工場を増設するらしい。沢山の瓦が搬入されている。それならそうとこちらに電話くれればいいのに。あたりをよく見ると向いのタンボの中の電柱の下に土台のコンクリート共、ほうりだされていた。早急に適当な所へ建て直さねばならん。

（2）は池の北端で健在であったが、附近の道路は大きく変っていた。高川沿いの農道は広い車道になり堤防下から東へカーブして終点附近は造成中だ。

又ここから（3）のコースは設置当初は土生滝道へ出たが、堤防の東端

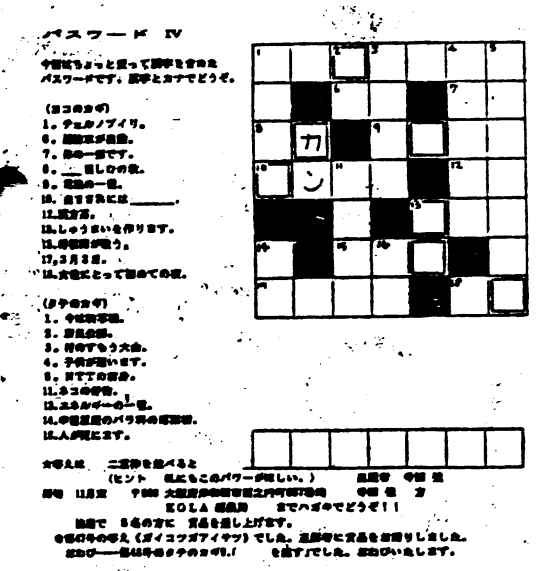


６１年１月５日に新春ＯＬ大会が始まりました。

翌年から毎年恒例になり、新春ＯＬは「岸和田」でと愛されています。

「４３号　６１年１月」

「４９号　６１年１０月」



パスワード Ⅳ

今回はちょっと変って漢字を含めたパスワードです。漢字とカナでどうぞ。

（ヨコのカギ）
1. チェルノブイリ。
6. 国語辞典。
7. 秋の一番です。
8. ＿＿ほしのの歌。
9. 花鳥の一種。
10. 当てずっぽうには＿＿＿＿。
12. 成功者。
13. しゅうさいを作ります。
15. 母親が呼ぶ。
17. 3月3日。
18. 女性にとって憧れての仕事。

（タテのカギ）
1. 今年取得型。
2. 原発公開。
3. 何やってもう大会。
4. 予約が開いています。
5. 月下下の恋人。
11. ネコの好物。
13. ユネスコ＿＿の一種。
14. 中国産産のパラ茶の産地名。
16. 人間関係です。

女帝人は　二文字を並べると
（ヒント　私にもこの力が欲しい。）　　北原谷　中田 稔

岸和田　11月度　予算額　大阪府岸和田市城之内町岸和田城　中田 稔　殿
ＯＬＯＬＡ 岸和田　　まで ヘンタ ヤ でどうぞ！！

抽選で　５名の方に　賞品を差し上げます。
今回の当ての答え（ダイコンダ アイヤツ）でした。抽選で賞品を差上げ致しました。
ヨロシク――第45号のタテのカギ5.！　　を当てました。ヨロシクいたします。

会報にクロスワードが出ました。

しかも賞品つきです。

「６０号　６３年３月」

公認３級指導員養成講習会　（第１次）

好きやねん大阪

主催：岸和田オリエンテーリング協会
共催：大阪府オリエンテーリング委員会
後援：大阪府・大阪府教育委員会（申請中）
泉佐野市・泉佐野市教育委員会（申請中）
財大阪青少年活動振興協会

現文部省認定「社会体育指導者」制度が来年度よりスタートし、オリエンテーリング指導員も対象とするため、今後資格取得が時期、内容とも大幅に変更されるようです。現在の受講時間で指導員としての資格がとれるチャンスは、今年が最後になると思われます。皆って受講参加してください。

日　時　☆　昭和６３年６月１８日（土）午後２時　～　１９日（日）午後４時　１泊２日
会　場　☆　府立泉佐野勤労青少年研修センター（受付・フレンドシップセンター）
（〒５９８　泉佐野市日根野５５６５　☎０７２４（６８）０３８８代）
受講資格　☆　昭和６４年４月現在に満２０歳以上で、オリエンテーリングに興味を持ち、資格取得後オリエンテーリング活動の出来る方。

当会でも「公認３級指導員」の講習会をと、

６３年６月指導員講習会を開催いたしました

「７０号　元年９月」

???報告???

たそがれＯＬ＆ビアパーティ

各地の盆踊りも終わ、た8月19日（土）岸和田城二の丸公園で行なっ、た"たそがれ"ゆえに5時30分からスタート。それでも最終組はナイトとな、た。岸和田祭りも近いのでダンジリも出ていた。今回の地図は以前に当社会で作、たものを再作成したものです。

競技は個人、グループでポイントＯＬにラインＯＬをくみあわせました。市街地は車との干渉や、民家とのかねあい、ポストのいたずら等でなかなか思うようなコースが作りにくい。

また7時頃よりメインイベントのビアパーティ、が始まっ、た。焼肉をさかなに大宴会が9時頃までもりあがり暑い夏の一日でした。

☆成績

○個人

1・瀬戸聖久	38才	0：30	
2・財間定義	64才	0：32	
3・北川一夫	36才	0：34	
4・八代元二郎	73才	0：53	
（参考）寺田保	42才	0：38	

トップスタート、ポストにクレヨンを結わえる。

○グループ

1・中井亜紀子	15才	0：49	
真星子	13才		
2・寺田　豊	12才	1：03	
春夫	12才		
信	11才		
3・寺田　広子	？	1：17	
キミ子	？		
中井千鶴子	？		

Aimng

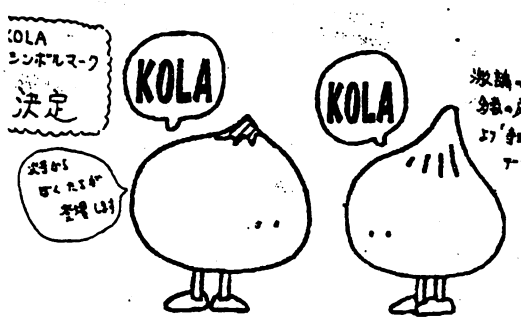
夏だ～。夏至がすぎ、梅雨空より晴天の日々が続く今日このごろ。ＯＬには向かないこの季節ですが、なぜか、気分がスカッとするのも事実です。しかし、この季節のスポーツと言えば「水泳」しかありませんね。現在、仕事が終った一時に、走るのではなく１０００Ｍ泳ぐことを心がけています。泳ぎ終わったあとのさっぱりした感覚は、やはりなんともいえませんね。みなさん、水の事故には注意しましょう。

「８０号　２年７月」のアイミング。

夏の盛りは例年ビアパーティがあります。
今回は岸和田城でたそがれＯＬを行いました。
「ナイト」ではありません。

「９０号　３年５月」

「ＫＯＬＡ」のマスコット、シンボルマークが欲しいなあー。と言う話になり募集いたしました。結果、「寺田　キミ子さん」の「ＫＯＬＡちゃん」マークに決め現在使っています。いずれは、ＫＯＬＡちゃんの旗でも作ろうと思っています。



激論の末
多数の応募作品の中
より"寺田キミ子様"
デザインを選出
いたしました。

「KOLAちゃん日記」が70号（平成元年9月）より開始、91号で第20話になりました。
作者は中井 真里子ちゃん。今年で16歳になるかわいい女の子です。勉強にスポーツに、そしてKOLAちゃん日記の作者といろいろな顔を持っています。琴の腕前も皆さんに披露したいほどです。

写真で見る１００号までの歴史

56/11　ガールスカウトＯＬ講習会　主催

講師は大西氏

56/3　全日本大会／岐阜
瀬戸家全員参加・背中に下の子が！

参加者を誘導する坂本、川崎氏

59/3　水間／府民大会　主催

受付担当　清家さん

リレーもスタートは緊張、強氏

60/2　第２回ｳｪｽﾀﾝｶｯﾌﾟﾘレー大会参加

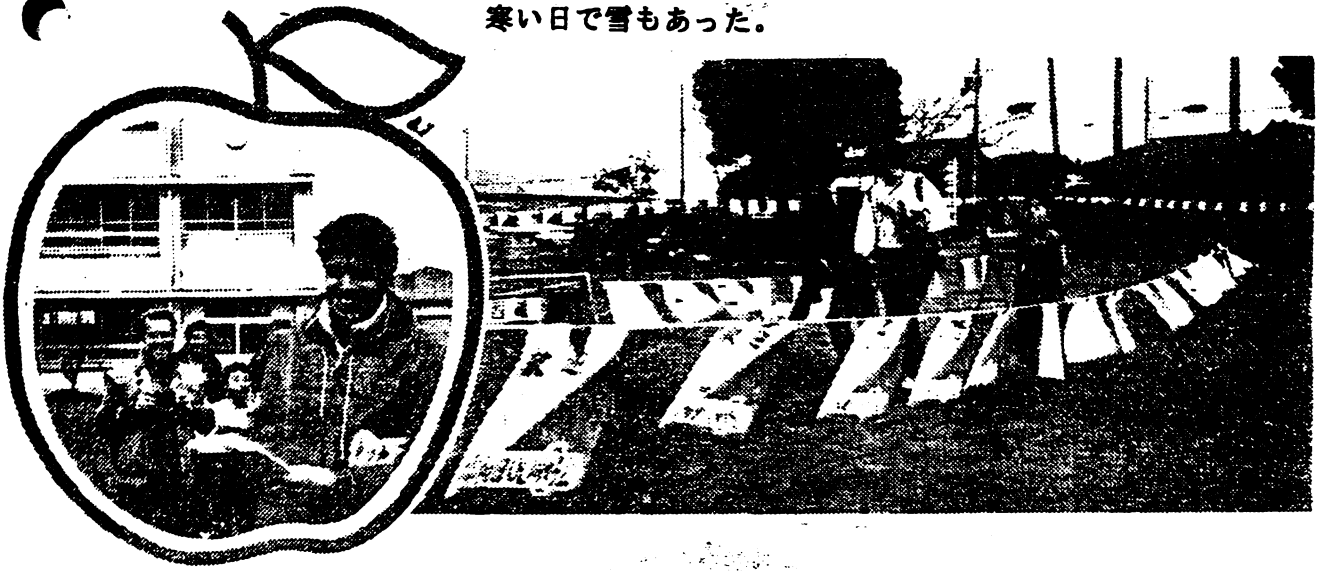
61/3　第９回市民ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ　参加

小さい子供達がたくさん参加してにぎわった。

61/4　オーツタイヤＯＬ大会

62/3　神於山府民ＯＬ大会　主催　　外人さんも参加しもり上がった。

寒い日で雪もあった。



“浜野品子さんスタート”

63/1　第4回ｳｪｽﾀﾝｶｯﾌﾟﾘﾚｰ大会　参加

「リレーの参加は倍楽しい」

瀬戸、大西、松阪、浜野、寺田

63/6　3級指導員講習会を開催

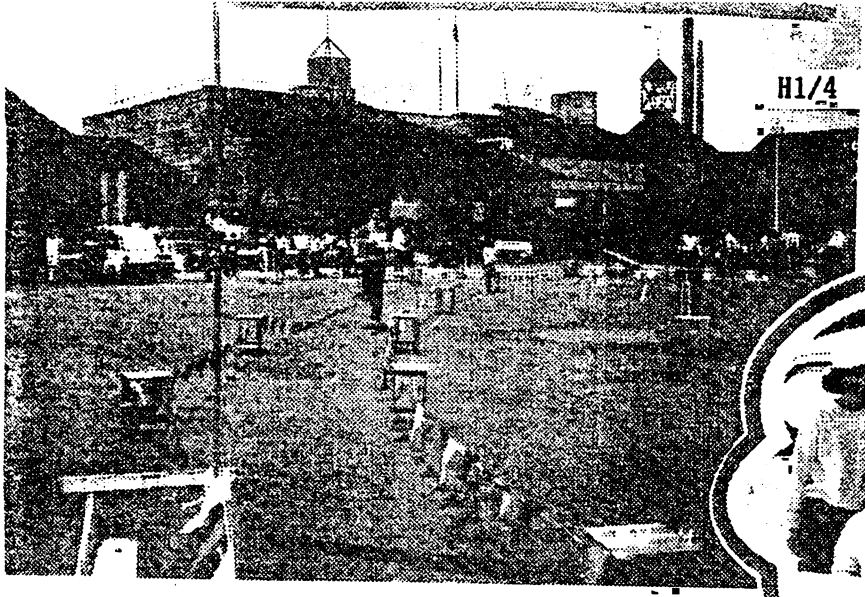
63/5、丹波リレーOL大会で走る“松阪氏”

63/7　会員の親睦も……
和歌山／玉川にてキャンプ

中井ファミリー

奥様、いつもご協力ありがとう。
廣子、千鶴子、照江、そして右端がキミ子さん。

64/1　新春ＯＬ大会　主催　モチ焼きしてます
瀬戸、寺田様、中井の奥様



H1/4　第５回ｳｪｽﾀﾝｶｯﾌﾟﾘﾚｰ大会　主催
「しんどかった！！」

H1/8　たそがれＯＬ大会　主催
いつものビアパーティ付き

H2/11　ふれあい淡路ＯＬ大会参加／寺田㈱、横田、瀬戸、北川、佐藤氏

フルマラソン　（游さんは永遠のライバルか？）

ＯＬＣ吉備路　大森　和実

機関誌「ＫＯＬＡ」１００号記念おめでとう、私もこの記念誌にのせてもらうべくペンをとりました。私の趣味はＯＬのみでなく、他にも多々ありますが、その中の一つマラソンについて書いてみたいと思います。

近年のジョギングブームのあおりから、参加料を払い、参加賞（タオルかＴシャツが多い）をもらい、ゼッケンをつけて走りだしたのが、確か昭和６１年１０月の蒜山高原マラソン全国大会（２０Ｋｍの部）だったように思います。そして昭和６２年の岡山県内の大会吉備路マラソン３.５Ｋｍ、笠岡湾干拓マラソン１０Ｋｍのあと、３月には初のフルマラソン（４９．１９５Ｋｍ）、篠山ＡＢＣマラソン大会への参加と続いていった次第です。

学生時代から一度は挑戦してみたいと思っていたフル。最後まで走り通せるかどうか、途中で歩いたとしてもタイムは４時間か５時間かそれとも６時間かかるのか、一度はやってみたい公認距離でのフルでした。

この初めての練習は、昭和６１年１月の吉備路マラソン（３５Ｋｍ）への代走で出てみないかといわれたのがきっかけで、同大会２週間前の１月下旬に３５Ｋｍの距離をはかり走ってみましたが、走るのは２５Ｋｍ位までがやっとで後は歩いたり、走ったり、歩いたり歩いたりの連続で、確かゴールに４時間近くかかったのが思い出されます。結局その２月の大会は都合がつかずにパス。そして１年たってからのこの大会で３５Ｋｍを２時間５８分位でゴール、しかし、走り続けたのは３０Ｋｍまで、後５Ｋｍは歩くことが多かったのでした。

そして、前述の篠山でのフルと相成った訳です。前日は福岡への出張があり、家に帰ったのが夜９時すぎ、あまりの全国的な寒さのため途中新幹線の外は雪が降り出している所もあった。すぐ、篠山の大会事務局へ電話を入れると、明日は除雪してでも大会は行なうとのこと。風呂に入り、用意をし、１１時すぎ知らない道へと車で出発。真夜中の３時頃到着し、得意の車中泊にて朝を迎える。

１０時すぎ着替えをすませてスタート地点へ、参加者１２、０００人とはさすがにすごい人数である。この大会は関門打切り時間が２ケ所で設定されており、２１．１キロを２時間２５分、３５キロを３時間３０分、さらにゴールを４時間５０分となっており、２１．１キロ、３５キロはその時間を過ぎると強制的に待機している収容車（バス）に乗せられ、その先を走ることは出来ない。

当日は初めてのフルでペース配分もわからず無我夢中で走り、３５キロまでは調子ががよかったが、３５キロを過ぎて急に腹痛を覚え、足のうらのマメ、水ブクレの痛みも重なり走り続けることができず、ラスト７キロを歩いたり、走ったりの遅いペースで３時間５４分１９秒で何とかゴールする。

帰宅後のビールの味は格別で、人生の一つの目標を達成したという満足感がありました。

それ以後次なる目標はタイムよりも、歩かずに走り続けてゴールすること。歩くのより遅くても足を上げ走っているという状態でゴールすること。（個人的に完全完走と名づけている）であるがそれも６回目のフル、平成２年４月の小笠掛川マラソンで達成ちなみにタイムは当時の自己ベスト３時間４９分３３秒であった。そして今年の１月観光を兼ねての館山芳湖マラソンで、参加資格記録をもたないで参加できるフルマラソンへの出場は１２回目となりました。

フルで完全完走できるかどうかは当日の体調、天候、気温によるのはもちろんであるがスタート時間にもよるが３時間を越えて走ると途中で腹が減りスタミナ切れ（ガス欠という）を起こすので途中のエードステーションの数と品物（水、スポーツドリンク、バナナ、ミカン、ミニパン、飴等）の量が豊富に置いてあり、とりやすいかどうかが重要なポイントである。

大会によってはウエストポーチに飴玉、ブチパン等を詰めて走る必要もあるので事前情報の入手も大切である。次なる夢はサブスリー半（３時間３０分を切ること）であるが、これはちょむづかしいような気がする。ちなみに自己ベストは平成３年３月３日の明日香ひなまつり古代マラソンでの３時間４１分１９秒である。

話が遠まわりしたがタイトルの游さんとは一昨年の瀬戸内海タートルフルマラソン（小豆島土庄町で開催）と昨年、今年の吉備路マラソン（３５Ｋｍ）と３回対決し●●○という勝敗である。まあ勝敗よりもいかに少ない練習で楽しく走れるかをモットーに可能性のあるかぎり挑戦してみたいと思っています。皆さん、又ゲレンデ会場でお会いしましょう。

岸和田ＯＬ協会作成地図

＜作成年順＞　平成４年２月現在

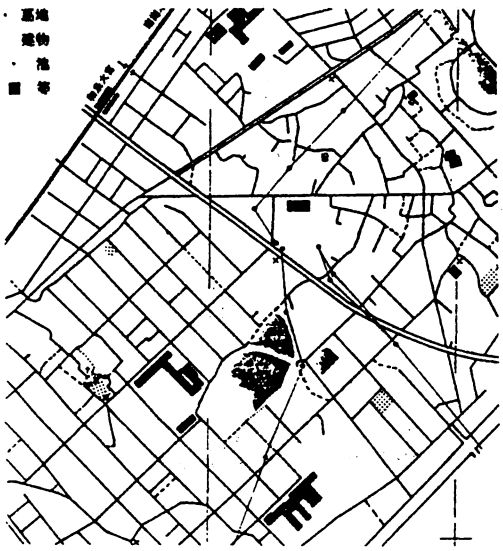
《１》 大会用　他

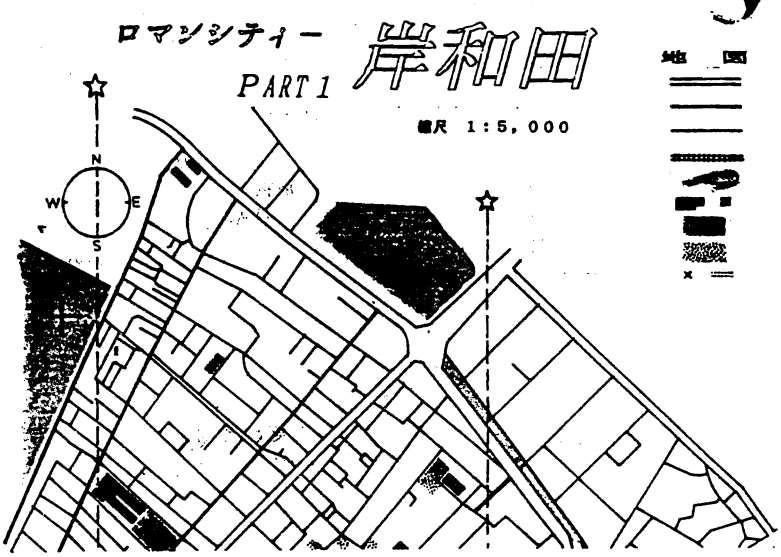
地図名	大きさ	色数	可能度	縮尺	等高線間隔	作図者	作成年	印刷所	備考
第4回岸和田JCオリエンテーリング大会用地図	A３	２色	0	1:10,000	10m	松阪　善雄	昭和54年	ブレインいずみ	スコアOL用
貝塚橋本　=はしもとその周辺=	A４	４色	0	1:10,000	10m	瀬戸　照久	昭和55年	ブレインいずみ	O=MAP1号
緑と太陽の丘・・・岸和田・・・	B５	３色	0	1: 7,500	10m	寺田　強	昭和57年	(株) 泉文社	
岸和田　神於山（Ⅰ）	B4変	３色	0	1:15,000	10m	瀬戸　照久	昭和57年	(株) 泉文社	ＰＣ用
水間　大阪府駅	A４	４色	0	1:15,000	10m	瀬戸　照久	昭和59年	(株)前田印刷所	
大阪府立　少年自然の家	B４	５色	1	1: 2,500	2m	瀬戸　照久	昭和60年	(株) 泉文社	施設用
岸和田　中央公園 -Ⅰ-	B５	３色	1	1: 5,000	なし	寺田　強	昭和60年	(株) 泉文社	都市公園MAP
岸和田　神於山（Ⅱ）	B4変	５色	3	1:15,000	10m	瀬戸　照久	昭和62年	(株) 泉文社	PC改定&大会用
日根野，上之郷	A４	３色	0	1:15,000	5m	瀬戸　照久	昭和63年	(株) 泉文社	3連講会用
葛城山麓	B５	５色	3	1: 5,000	5m	瀬戸　照久	平成 2年	(株) 泉文社	WCリレーOL
岸和田　中央公園 -Ⅱ-	B５	４色	3	1: 5,000	1m	寺田　強	平成 3年	(株) 泉文社	都市公園M 改定

※松阪善雄氏は、調査責任者

《２》 ストリートマップ

地図名	大きさ		縮尺	作図者	作成年	備考
ミニミニＯＬ　中央公園	A４	コピー	1: 1,000	寺田　強	昭和59年	市民フェスティバル用
シティマップ 泉大津	B５	コピー	1:10,000	瀬戸　照久	昭和59年	企業行事主管
ロマンシティー 岸和田 Part Ⅰ(1)	B４	コピー	1: 5,000	瀬戸　照久	昭和63年	
ロマンシティー 岸和田 Part Ⅰ(2)	B４	コピー	1: 5,000	寺田　強	昭和65年	薄暮大会用　改定
ロマンシティー 岸和田 Part Ⅰ(3)	B４	コピー	1: 5,000	瀬戸　照久	平成 2年	新春大会用　改定
岸和田　中央公園	A３	コピー	1: 2,500	寺田　強	平成 3年	
ロマンシティー 岸和田 Part Ⅱ	B４	コピー	1: 7,500	寺田　強	平成 3年	





ＫＯＬＡの沿革・歴史

昭和４９年１０月　３級指導員講習会参加者の内、岸和田市在住者３名で岸和田ＯＬ同好会結成の気運高まる。

昭和５０年　３月　岸和田ＯＬ同好会発足総会を中央体育館にて開催。（１５日）
初代会長　平松正人氏　　会員数　３６名

昭和５３年　４月　ＪＯＬＣ公認クラブ制度発足に伴い、登録申請を行う。
当年度より公認クラブとなる。〈Ｊ　Ａ１２９号〉

昭和５４年　６月　クラブ名を『岸和田オリエンテーリング協会』と改名する。
２代目会長　瀬戸照久氏　　会員数　２４名

昭和５５年　３月　初の４色刷Ｏ－ＭＡＰ（貝塚橋本）を作成。（3/16大会）
６月　Ｔシャツユニフォームを作成する。

昭和５８年　２月　神於山にパーマネントコースを新規設定する。
クラブ旗を大西さんの協力で手作りで作成する。

昭和５９年１１月　新春大会の前身の『おもしろＯＬ』を開催。（第１回浜寺公園）

昭和６１年　１月　新春大会と銘打っての大会開催。（第１回府立少年自然の家）

昭和６１年１１月　会報《ＫＯＬＡ》第５０号発刊。
当初より毎月発行予定だったが、結局１１年の歳月を要した。

昭和６２年　３月　神於山パーマネントコースで地図改定再オープン大会開催。
ジャンパー式ユニフォームを作成。

昭和６３年　６月　３級指導員講習会をクラブ主催で開催。（日根野上之郷）

平成　元年　４月　第５回ウエスタンカップリレー大会を主催。（少年自然の家）

平成　元年　６月　初代会長　平松正人氏　急逝する。（6/19）　享年７５歳

平成　元年　８月　会報《ＫＯＬＡ》にＫＯＬＡちゃん日記４コママンガ連載開始。

平成　２年　３月　会報《ＫＯＬＡ》に付録（ＫＯＬＡカレンダー）開始。

平成　２年１２月　トリムユニフォーム作成。

平成　３年　６月　クラブマスッコトマーク決定。

平成　４年　３月　会報《ＫＯＬＡ》第１００号発刊予定。

＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃

岸和田ＯＬ協会事務局＆編集局

※事務局　〒596岸和田市作才町187　瀬戸 照久　☎0724-37-3094 FAX兼

※編集局　〒596岸和田市小松里町477-2　横田　実 ☎0724-43-1449

＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃

大会開催記録

＝企業・団体等の主管大会を除く＝

年月日	大会名	開催地又は地図名	参加者数
S49.11. .	岸和田市民ＯＬ大会	信太山	約　６０名
S50. 3.16.	発足記念ＯＬ大会	神於山	７５名
6. 8.	第１回ＪＣＯＬ大会	神於山	３７５名
10.26.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	友ヶ島	３５名
S51. 3.14.	２周年記念ＯＬ大会	岬町淡輪	６０名
5. 2.	第２回ＪＣＯＬ大会	久米田池	４３７名
10.31.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	神於山	約１２０名
S52. 3.13.	３周年記念ＯＬ大会	神於山	６５名
5. 8.	第３回ＪＣＯＬ大会	神於山	５９０名
10.23.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	神於山	名
S53. 3.19.	４周年記念ＯＬ大会	貝塚水間	５３名
5. 5.	市民フェスティバルＯＬ大会	中央公園	１６２名
11. 5.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	神於山	９７名
S54. 5.20.	第４回ＪＣＯＬ大会	神於山	３３３名
11. 4.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	神於山	１３４名
S55. 3.16.	６周年記念ＯＬ大会	貝塚橋本	１３１名
11.16.	岸和田市民体育祭ＯＬ大会	天神山	１３０名
S56. 3.29.	天野山ＰＣ開設１周年ＯＬ大会	天野山	名
S57. 5.16.	岸和田市民ＯＬ大会	神於山	５６名
11.14.	ＫＯＬＡＯＬ大会	坂井亀池	６名
S58. 2. 6.	神於山ＰＣオープン記念ＯＬ大会	神於山	名
5.15.	初心者ＯＬ大会	神於山	名
11.13.	浜寺公園ＯＬ大会	浜寺公園	名
S59. 3.11.	11周年記念ＯＬ大会兼府民ＯＬ大会	貝塚水間	名
5.13.	初心者ＯＬ大会	神於山	名
11.25.	おもしろＯＬ大会	浜寺公園	７４名
S60. 4.14.	おもしろＯＬ大会	中央公園	１３９名
10.13.	ＫＯＬＡＯＬ大会	神於山	２２名
S61. 1. 5.	’８６ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	少年自然の家	４４名
5.25.	なうスポーツＯＬ中央公園大会	中央公園	２９名
7.20.	なうスポーツＯＬ水間大会	貝塚水間	１６名
8. 2.	ナイト＆ビアＯＬ大会	中央公園	１２名
10.19.	なうスポーツＯＬ神於山大会	神於山	２０名
S62. 1. 4.	’８７ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	白狐丘陵	延べ　９９名
3. 8.	神於山府民ＯＬ大会	神於山	２４２名
7.25.	ナイト＆ビアＯＬ大会	中央公園	名
S63. 1. 3.	’８８ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	神於山	３６名
2.21.	ロマンシティー岸和田ＯＬ大会	岸和田市街	２８名
7.16.	中央公園ナイトＯＬ大会	中央公園	１５名
S64. 1. 3.	’８９ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	日根野上之郷	５７名
H 1. 4. 2.	第５回ウエスタンカップリレー大会	葛城山麓	２９７名
8.19.	たそがれＯＬ大会	中央公園	１３名
H 2. 1. 3.	’９０ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	市街＆浜工業公園	６２名
H 3. 1. 3.	’９１ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	貝塚水間	６４名
3. 3.	少年自然の家ミニＯＬ大会	少年自然の家	２１名
8.10.	ナイト＆ビアＯＬ大会	中央公園	１６名
10.13.	シティー＆パークＯＬ大会	市街＆中央公園	２２名
H 4. 1. 3.	’９２ＫＯＬＡ新春ＯＬ大会	浜寺公園	８８名

岸和田オリエンテーリング協会　会員名簿　平成4年1月現在

氏名	生年月日		住所	電話番号	勤務先	記事	入会年度
大西 明雄	S 8.12.27.	596	岸和田市 野田町 2丁目9-1	39-5560	泉尾工高教諭	1級	昭 54年度
〃 彦美	S18.11. 7.		〃	〃	主婦		昭 61年度
川崎 栄門	S23. 4.21.	597	貝塚市 小瀬 467	31-4528	大阪東郵便局		昭 58年度
北川 一夫	S27.12.29.	598	泉佐野市 下瓦屋 5-9-6	62-6006	熊取北中学校教諭	3級	昭 63年度
坂本 晴文	S12. 9.14.	594	和泉市 府中町 4丁目18-7-108	0725-45-0208	東陽中学教諭	3級	昭 51年度
佐藤 庄三	S11. 1.20.	596	岸和田市 尾生町 837-3	43-6794	電気店経営	3級	昭 59年度
清家 靖	S 2. 3.15.	598	泉佐野市 高松東 2丁目10-8	62-5365	南出真大小型		昭 55年度
〃 鶴美	S 8.12.11.		〃	〃	〃		昭 55年度
瀬戸 熊久	S26.10.20.	596	岸和田市 作才町 187	37-3094	泉佐野郵便局	1級	昭 50年度
〃 照江	S27. 1.17.			〃	主婦		昭 61年度
寺田 強	S23.12. 4.	596	岸和田市 小松里町 588-1	43-4904	建築設計事務所経営	3級	昭 53年度
寺田 保	S21.12. 7.	596	岸和田市 西之内町 508	38-0260	有恒産業㈱	3級	昭 59年度
中井 親次	S22. 7.16.	596	岸和田市 磯上町2-5-20	22-5355	建具店経営		昭 59年度
水瀬 真一	S43. 8.31.	152	東京都 目黒区 目黒 6-19-24 [illegible] 2F3号	03-3792-4586	東京工大 院生		平 3年度
浜野 信吉	S23.12.19.	595	泉大津市 助松 1丁目1-11	0725-33-3852	関西電力㈱		昭 59年度
〃 品子	S22. 2.26		〃	〃	主婦		昭 61年度
東 義昭	S16. 6. 1.	597	貝塚市 畠中 2－10－11	31-5083	七山病院		平 3年度
前中 淳	S 2. 2.23.	596	岸和田市 大北町 8-21	31-8764	無職	3級	昭 51年度
松阪 喜雄	S16. 7. 3.	596	岸和田市 下松町 308	22-3639	住吉警察署		昭 49年度
村橋 和彦	S22. 9. 4.	580	桜原市 丹南 4－113－77	0723-35-5868	(株)日本油研		平 3年度
山岡 宏司	S25. 7.16.	598	泉佐野市 中庄 24-8	64-1262	長南小学校		平 1年度
横田 実	S39. 2.22.	596	岸和田市 小松里町 477-2	43-1449	塔荘中学校教諭	3級	平 1年度
米沢 栄作	S44.10. 9.	590-04	泉南郡 熊取町 五門 263-1	53-3598	〃	〃	平 1年度
前田 春正	S22. 2. 5.	591	堺市東浅香山町3-145-1 [illegible]4-301	0722-55-8764	(株)東芝 関西支社		平 4年度

平松さん

KOLAちゃん日記

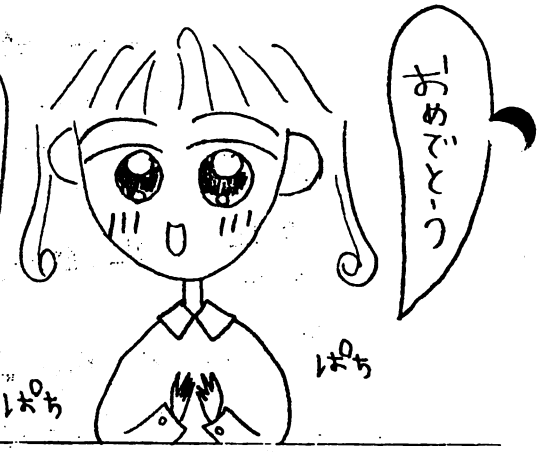
29話

妹

100回と
ゆーことは
年12回でー
えーと
えーと

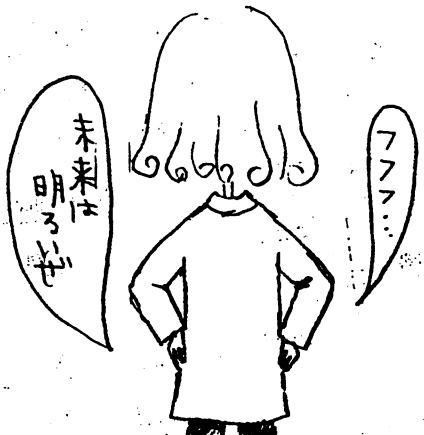
えっ
8年以上
もっ?!

祝100回



2	1
4	3

これからもずっとKOLAと
一緒にがんばってゆきますので



どうか応援してやって
下さい。

めざせ200号!

現在KOLAに掲載
されている方の中には
もう8年も載せている方が
おられるんですね。
そんな中では
まだまだ
新参者の
私ではありますが…

あ と が き

１００号と一言で言えば簡単だが１００号を続けるというのは大変な事と思う。故「平松氏」が昭和５０年４月に創刊し、その後は毎月をといいながらも途中止まったりしながらも良く続いた。これも会員皆様や、ご支援頂いたオリエンティアーの方々のご協力があったからと思う。

会報というのは会員相互の交流の機関誌であるのだから会員の権利を行使し積極的に利用すべきと思う。特に当「ＫＯＬＡ」は総合ミニコミ誌を自認するものであるから、好きなことを載せたらいい。なんでもござれの機関誌でいいのでは。１０１号から紙面も一新し頑張りたいと思う。

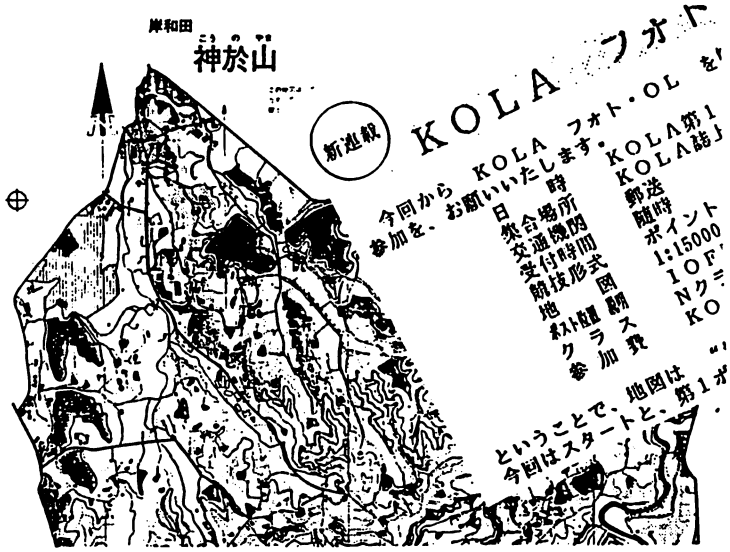
最後に１００号記念誌のために寄稿頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

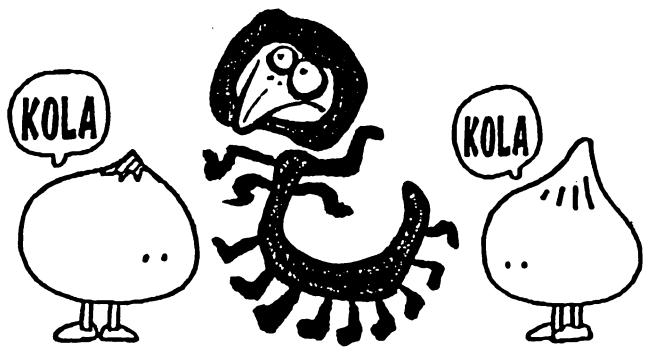
100号記念誌 編集委員長　寺田　強

予告

次号からフォト・OLを掲載乞うご期待！

本号とじ込みの”神神山”の地図を使いますので保存して下さい。





1992年3月　発行

岸和田オリエンテーリング協会